

チャレンジ ツベツ

CHALLENGE TSUBETSU

津別町第6次総合計画
令和4年度 進捗評価シート
(令和2年度～令和11年度)

令和5年7月

津別町

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～
 施策 1-1 子育て支援の充実「子育てしやすく子どもがすくすく育つ 子育て世代に選ばれるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価			外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	
<p>◎津別の子どもたちが町外へと巣立ってからも、「津別の子育て環境の良さ」を思い返し、「子育てをする場」として再び津別に戻ってくるまちとなっています。</p> <p>◎子育て世代が住みたいと思う環境(働く場・住居・生活環境)が整っており、「子育てする場・暮らしの場」として選ばれるまちとなっています。</p> <p>◎町民が子育てのしやすさを実感し、さらには町外にも発信され移住者が増加しています。</p> <p>◎小さな子どもから中高校生まで、子ども一人ひとりが気軽に安心して過ごせる居場所があります。</p>	[1-1-1] 子育て情報の充実と「子育てしやすいまち」としての発信強化	保健福祉課	<p>・子育て情報の発信: 令和2年度から「つべびい」母子手帳・子育て支援アプリを導入。母の健康記録、子の成長記録、予防接種管理などの母子手帳機能の他、地域の子育て情報の発信を行った。R5.3月末現在、81件のユーザー登録(前年度比13件増)。地域の子育て情報は、R4年度14件発信。うち、5回は町の子育て相談の場である乳幼児相談会について定期的に配信を行った。</p>	<p>・母子手帳交付時、赤ちゃん訪問時に個別周知したことで前年よりアプリ登録者が増えているが、新型コロナの影響もあり、前年度に引き続き広くPRすることが困難だった。</p> <p>・上記の理由で、まだアプリを登録していない方も多くおり、直接子育て情報を届けることができていない方も多くいる。</p> <p>・アプリ内で配信するニュースの内容が定まっておらず、アプリを利用するメリットにつなげられていない。</p>	<p>・必要な情報が子育て世代に直接届くよう、アプリの登録者数の増が必要と考えるため、引き続き個別勧奨の継続と、広報・HP等の媒体を活用し、アプリ登録者数の増に努める。</p> <p>・出生相談時、子育て世帯の転入時など、子育てに関する制度などの周知を行い、必要な方に適切に情報が届くようにする。</p> <p>・ニュースの内容を検討し、定期的に配信できるようにする。</p>	<p>【提案】 つべびいの支援アプリは、便利でとても良いと思う。母子手帳交付時や健診時にチラシを配布するだけではなく、実際に使っている人のアプリを見せて、どれだけ良いか判断してもらうのは良いのではないかと。今は色々な便利なアプリがあるので、事足りてしまうので。</p> <p>【提案】 デジタルサイネージを有効活用して、アプリなどの紹介や他アプリとの比較などをしてはどうでしょうか？ 実際、類似アプリが多く利用の際に迷われているようです。</p> <p>【評価】 いままさに子育て真っ最中です。つべびいアプリは活用させてもらいました。ただそもそも子供の数が少ないのでアプリの必要性もどうかと思います。いまはいろいろな情報がネットに出ているのでそちらで解決できる事も多いので、個別に相談などの対応が喜ばれると感じます</p>
	[1-1-2] 子育て世代のニーズにあった支援の充実	保健福祉課	<p>・子育て世代包括支援センターの運営体制の構築(マニュアル作成等)</p> <p>・R3年度から乳児健診(3~4、9~10か月児)を医療機関へ委託。R4年度の受診率:3~4か月94%、9~10か月100%。</p> <p>・R3年度から開始した乳幼児相談会事業を継続して実施。生後2か月~就学前までの乳幼児を育てる保護者を対象に毎月1回実施。R4年度は計11回実施し、合計71組の親子の参加があった。</p> <p>・3歳児健診にて弱視の発見率を高めるために屈折検査機器を導入。R4年度は22人受診中、2人が要精密検査となっている。</p> <p>・産後ケア事業について、利用区分を拡充(短期入所型、通所ロング型)したが利用者はいなかった。委託医療機関先として愛成病院と北見赤十字病院を追加し、それぞれ利用があった。</p>	<p>・乳幼児相談会の自由参加者が少ないこと。</p> <p>・プレママ、育児学級等の教室開催の難しさ(出生数の減少による)。</p> <p>・3歳児健診で精密検査対象となった児のその後の受診が徹底されないこと(保健師が促しても受診につながらない)。</p> <p>・産後ケア事業の利用区分を拡充したが利用につなげられていないこと。</p>	<p>・「つべびい」以外にも広報やこども園、支援センターを活用して相談会について周知する。</p> <p>・教室について開催要件を変更。</p> <p>・3歳児健診後の精密検査対象者の受診を促す方法の検討。</p> <p>・産後ケア事業について、妊娠中、出産後に周知。</p>	<p>【提案】 屈折検査機器を導入している事と、どんな物なのか今知った。精密検査対象となったら、受診がどれだけ大切なのか分かってもらえない。産後ケアは気軽にできる雰囲気になっていない。自分のための時間を取りづらい。基本我慢が当たり前になっているので、強制的に1度専門の人に診てもらおうことをしたら良いかと思う。</p> <p>【評価】 支援はとても充実していると感じます。引き続きお願いします。</p> <p>【評価】 利用者が少ないのは皆様の頑張りで、ニーズが足りている側面もあるのかもしれませんが、改めてどんな事業が必要で楽しいかなど検討しても良いかもしれません。</p> <p>【評価】 津別町の子育て支援については、充実していると思います。</p>

	<p>【1-1-3】すべての子どもの安全・安心な居場所づくりの推進</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・児童館事業・放課後児童クラブの充実 新型コロナウイルス感染症により、児童館の一般開放はせずに児童クラブ登録とバス待ち児童のみの受け入れでの運営だったが、感染症対策を徹底し安心安全な居場所作りができた。 →児童クラブ36名、準児童クラブ48名、バス待機児童11名、25事業を展開(アソビバ事業との連携も含む) ・アソビバ！つべつの充実 感染症対策として事業サポート体制を限定し、スポーツ推進委員等と連携する事業を増やし対応することができた。(農業・林業・歴史・運動教室など) →年間20事業実施、登録者63名、延参加人数481名</p>	<p>・登録児童が多いことから密集を避けた取り組みに苦慮している</p>	<p>・児童館運営については、関係機関と協議し、児童館のあり方を検討する。 ・ICTを活用した事業展開</p>	<p>【評価】 児童館などまだ利用が少ないので良く分からないですが、たくさん行事などがあり、アソビバ！つべつも日常では体験できないことができて良いと思う。</p> <p>【評価】 休日に近くの公園に遊びに徒歩で行く機会が多いのですが、ブランコや地中にタイヤを埋めている物などとても古いです、学区のどの公園も設備など含めて力がはいってないように感じます。安全面も含めて将来どうするのか気になります。</p> <p>【評価】 児童館の老朽化が著しく、子供たちが安全に楽しく過ごせるようハード面の整備が必要と感じる。</p> <p>【評価】 児童館運営、アソビバつべつ、いつもありがとうございます。民間学童ってどうなのでしょう？ハードルは高いですね…やってくれる人も必要ですし、補助金でそういう可能性が出来ればよいと思います。民間だとどうしても高くなるとおもうので、それはそれで子供も差別化になってしまうのかな…何にせよ良い環境になれるといいですね。</p> <p>【評価】 現状のままが良いと思います</p>
	<p>【1-1-4】若い世代が子育てできる《住む・働く・生活》の環境づくりの推進</p>	<p>建設課 (住宅、道路、インフラ)</p>	<p>・令和3年度に策定した「歩道修繕計画」に基づき、町道4号線及び150号線の歩道補修工事を行った。 ・子育て世代の住宅支援のため、ふるさと定住促進奨励金の中で子育て加算分を増額し、制度を継続した。</p>		<p>・計画に基づく補修工事について継続する。 ・住宅取得支援の制度を継続する。</p>	<p>【評価】 工事はどこなのか分かりませんでした。住宅取得支援も良くわかりませんでした。</p> <p>【評価】 ○住む場所が課題になっていると思います。空き家も住める住宅が少なく、企業も探しますが住む場所がなく町の一番の課題ではないかと思います。各部門と連携して、補助金も良い仕組みができれば良いと思います。</p> <p>【評価】 津別町では若い世代ほど、移住(Uターン含む)に苦慮しています。その理由は住宅の受け皿がないことです。すぐ住める家。誰でも住める賃貸戸建ての不足。若い世代が住んでもいいと思えるような家(一定の清潔感*現状がこれだから仕方ないではなく、今自分や自分の家族が住もうと思ったら、現状で住みたいと思えるのかをぜひ考えてみてください)の不足。町内に就職が決まっても住まいが見つからないという状況。ファミリー世代で、津別に住みたいという人がいるのにすぐに住めない状況です。厳しいことを言うようですが、住まいという受け皿の改善をしない限りは他の移住施策(発信など)をしても意味がない気がしています。またこれは今後ではなく、今対策しなければいけないことだとも思います。</p>
		<p>住民企画課 (買い物環境)</p>	<p>・買い物等利便性確保の観点から、まずはスーパーマーケット、バス待合、ハイヤー事務所、図書館が同居した複合施設「大通棟」が完成。オープンはR5年度を予定。ドラッグストアの整備についてはR5年度中に予算協議を行いR6年度に工事着工・完成を目指す。</p>	<p>・人が集まり賑わいや活気をもたらす仕掛け作りを民間事業者と連携して進める必要がある。</p>	<p>・引き続き、市街地総合再生基本計画推進協議会と、議会全員協議会で合意形成を図りながら、事業を進めていく。</p>	<p>【評価】 複合施設は楽しみです。</p> <p>【評価】 DS等の見通しを早くしておかないと、若い世代では生活しにくいと思います</p>
		<p>総務課 (公共施設)</p>	<p>・健康福祉センターが開設されて、妊娠期から乳幼児期の相談会や教室、1歳半・3歳児健診を定例的に実施。</p>	<p>健診ホールが手狭であるが、中ホール等の活用など工夫して実施していく。</p>	<p>引き続き、健康福祉センターを拠点として、子育てに関する事業を実施、充実していく。</p>	

	産業振興課 (働く場創出)	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業者若者雇用促進助成金事業の継続実施。R4から対象若年者の要件を一部緩和(正規雇用された日の属する月に町内に住所を有すこと者→正規雇用された日から1年以内において町内に住所を有する者) →R4実績見込:6事業者8名(うち新規2事業者2名) ・小規模事業者若者雇用促進助成金事業の3年間の時限延長(R5~R7)。 ・UIJ新規就業支援事業の継続実施と町内企業への法人登録の推進。 →R4見込:0件 	<ul style="list-style-type: none"> ・量的に雇用機会はあるものの、求職者とのミスマッチが生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・UIJ新規就業支援事業の継続実施。 ・他町と連携した雇用対策の組みの強化。 	
[1-1-5] 保育サービスの充実	保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、町内で就学前児童を受け入れる事業所は認定こども園1か所だが、多様な保育ニーズに対応できるよう、令和4年度においても延長保育、一時保育事業などの事業を継続実施した。(延長保育利用児童18名(延べ105名)、一時保育利用児童16名(延べ104名)) ・令和元年度10月から始まった「教育・保育の無償化」制度の制定に伴い、子育てのための施設等利用給付事業(一時預かり保育の無償化)を引き続き実施した。(令和4年度事業利用児童6名(述べ615名)) ・令和4年度末時点で、待機児童はいない。 ・人材確保を目的として、学生を対象に令和元年度に実施した「まるっと! ふくし体験(介護・保育)inつべつ」は、新型コロナウイルスの影響で開催できなかったが、町内の介護福祉事業所が掲載されたマップを、実行委員会にて作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育サービスが必要な方に情報が知られていないことがある。 ・保育人材の確保に苦慮しており、今後保育ニーズに対応したサービス提供が困難となる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園の人材確保における課題を行政と共有し、必要に応じて、人材確保や人材育成について対策を講じる。 ・出生相談時、子育て世帯の転入時など、子育てに関する制度などの周知を行い、必要な方に適切に情報が届くようにする。 	<p>【評価】 こども園の利用は今のところ保育が充実していて良かったと思う。逆にこども園が良すぎだのか、小学校の利用(放課後の児童館)が利用しづらくなった。</p> <p>【評価】 保育のサービスはとても素晴らしいですし、こども園施設など立派でセキュリティもしっかりしていて安心です! もっとアピールして移住などに繋がれたらいいとおもいます。</p> <p>【評価】 津別町の子育て支援については、充実していると思います。</p> <p>【評価】 一時預かり保育の無償化は共働き世帯にとって非常に助かり、引き続き継続して頂きたい制度である。</p> <p>【評価】 保健福祉課のみなさんはいつも発想が柔軟ですごいなと感じます。「ふくしMAP」はとてもいい町案内になっていると思います。もちろん福祉施設の紹介ではあるのですが、町全体を紹介できるものとして、とてもいいと思いますし、観光客や移住希望者にも人気です。「町の活気と暖かさを感じる」とお渡しした方々も言っていました。私は他の町で町谷パース工房さんのマップを見るたびに持ち帰りストックしていたので、津別でも、これができるうれしいです。今回は福祉でしたが、今後観光パンフレットとして残すことはできないのでしょうか? 今回限りではもったいないと思います。もしくはデジタルパンフレットとして役場や各種HPに掲載できるようにするなどもありがたいです。</p>

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～
 施策 1-2 学校教育の推進「夢や希望を持って未来を切り拓く子どもを育む『津別ならではの』学校教育の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>●健やかで豊かな人間性と多様性・国際性を育む教育が実践されています。</p> <p>●子ども一人ひとりに応じた、未来を切り拓く力と将来に向けた選択肢を与えられる教育が実践されています。</p> <p>●小中一貫教育化による“津別ならではの”体系的で特色ある授業が実践されています。</p> <p>●先進的で新しい学びの教育を受けられるまちとなっています。</p> <p>●地域全体で子どもを育てるまちとなり、地域の魅力を発信できる人材、まちづくりに参画する人材が育っています。</p> <p>●地元食材を使った安全で美味しい学校給食が継続的に提供されています。</p>	<p>[1-2-1] 特色のある学校づくり「食育・木育」と「交流」のさらなる充実</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>【食育】食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に着けることができるようになることを目的とする。 ・オール津別産給食～例年11月頃にオール津別産給食を3回(精米・麺・パンの主食で各1回)実施。子ども達に地元の食材を使った給食を通して、少しでもふるさと津別のことに関心をもってもらい、郷土への愛着や感謝の気持ちを育むことを目的に実施。 ・地元食材を使った給食の提供～普段の給食に可能な限り地元食材を使い、地産地消の意義や大切さを知ってもらうことを目的に実施。 ・食育授業の実施～平成21年4月から栄養教諭が配置されたことから、本町においても「食に関する知識」「食を選択する力」「望ましい食習慣」を身につけさせ、健全な食生活を実践することができるよう津別小学校で食育の授業を行い、食育の推進を図っている。各学年ごとにテーマを決めて実施。</p> <p>【木育】「木のまちつべつ」で生まれ育った子どもたちに、津別の基幹産業である林業等への理解を深め、将来を担う人材になってもらうべく、小学校3・5年生、中学1年生の3学年で講師を招へいし、森で木に触れる体験や木工品製作等の授業を実施。</p>	<p>【食育】コロナ禍の授業の中で、生産者の思いを聞くなどの場も設けてみたいと考えているが、取り組めていない。</p> <p>【木育】講師及び助手の高齢化が進んでいるため、後任の選定について検討を行っている。</p>	<p>【食育】今後授業の中で、生産者の思いを聞くなどの場も設けてみたい。</p> <p>食育・木育ともに学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を活用し、授業の見える化を図っていく。</p>	<p>【評価】 オール津別給食はとても有難い。親でも食べない物を食べれるので。木育も小さいうちから、取り組んでいてくれて、いつの間にか木や森といった自然を思いやる気持ちが芽生えるので有難い。</p> <p>【評価】 津別町独自の取り組みでとても素晴らしいですし、地域交流などさかんで子供の成長につながると思うので今後も継続してほしいです。</p> <p>【評価】 生産者の顔が分かる地元の食材を使った給食は保護者としても安心感があり、郷土愛を育むために有意義な事業だと思う。</p> <p>【評価】 食育の取り組みは素晴らしと思います</p> <p>【評価】 「食育・木育」を通して、地域のことを子供たちが知れる機会があるということはとても素晴らしいことだと思います。次に挑戦することで書かれていましたが、生産者の思いを聞き、それを食べられるなんて本当にすごいなと。大人でも参加してみたいと感じます。</p>
	<p>[1-2-2] 地域学(ふるさと教育)の充実《全学年一貫した取組の実践》</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・町教育委員会で作成した「社会科副読本」を活用し、小学校3～4年生の課程で、津別の歴史や産業を知る授業の実施 ・津別峠やノノの森等の津別の自然を体験する授業の実施。 ・町の産業を直接見て知るため、町内の工場等の見学授業の実施。</p>		<p>・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を活用し、授業の見える化を図っていく。</p>	<p>【評価】 親でも津別の歴史、産業などしっかりと分かっているないので、続けて欲しい。</p> <p>【評価】 1-2-2とあわせて、本当に良い取り組みだと思います。小さい時に自分が育った場所がどんなところなのかを継続的に知る機会があるのは素晴らしいと思います。</p> <p>【評価】 生産者の顔が分かる地元の食材を使った給食は保護者としても安心感があり、郷土愛を育むために有意義な事業だと思う。</p> <p>【評価】 本当に良い取り組みだと思います。小さい時に自分が育った場所がどんなところなのかを継続的に知る機会があるのは素晴らしいと思います。</p>
	<p>[1-2-3] コミュニティ・スクールの実践と体験型教育の充実</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)がR3.3に発足し、コーディネーターが小・中学校の課外活動の窓口を担うことで、相手先との交渉をスムーズに進めることができている。また、課外授業の打合せにもコーディネーターが参加することで、外からの意見も取り入れながら授業を構築している。 ・体験型授業としては、ふるさと教育と通じるが、津別峠やノノの森等の津別の自然を体験する授業の実施。</p>		<p>・学校の課題等を出してもらいながら、学校運営協議会委員と共に開かれた学校を目指していく。</p>	<p>【評価】 コーディネーターが窓口となり、やりやすくなっているのであれば、良いと思う。 外部の声は、とても重要だから。</p> <p>【評価】 学習指導要領で時間は限られると思いますが、学校と地域を結ぶ架け橋となることを願います。</p>

<p>[1-2-4] 先進的なICT、教育手法等の導入推進及び学校現場支援</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・令和2年度に導入した児童生徒一人一台端末活用のため、学習ソフト・アプリを継続導入し、津別中学校には教室以外の部屋でも活用できるようネットワーク環境を追加整備と教室にプロジェクター・スクリーンを導入した。 ・文部科学省による「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」に参加し、津別小学校の5年生・6年生に英語・国語・書写、津別中学校の全学年に英語・国語のデジタル教科書を導入し、各学校で活用した。</p>	<p>・機器導入だけではなく、端末を活用した先進的な教育手法の現場支援方法。</p>	<p>・先進的な教育手法の検討や情報共有を学校現場と共に行い、子どもたちに新たな学びの教育を受けられる環境を整えていく。</p>	<p>【提案】 生成AIが出来てからプロンプトという言葉よく聞きます。指示みたいなので、下記がおもしろいです。 https://prompt.quel.jp/</p> <p>【評価】 まだ、活用したことがないので、詳しく分からないが学習するにあたって、良いことではないかと思う。</p> <p>【評価】 学校の先生方については、かなりハードな職場と聞いたことがありますので、プライベートの確保等の意味でも支援は充実させて行くべきと思います。</p> <p>【評価】 ICTの進化は早いので、早期対応は必須だと思います。他市町村と比べると少し遅れている気がします。</p>
<p>[1-2-5] 多様性を認め合うための体制整備(特別支援教育のさらなる充実と理解度向上)</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・特別支援教育を充実させるため、臨時教職員を1名、学習補助員を小学校8名、中学校1名の計9名配置した。 ・特別支援連携協議会で講師を招いた講演会・事例検討会を予定していたが、コロナ禍で中止とした。</p>	<p>・特別な支援の必要な子どもに対して、適切な関わり方や必要な支援を行うために、特別支援教育担当教員と連携する学習補助員の人員確保</p>	<p>・継続的な学習補助員の人員確保。 ・今後は、講師を招いた講演会・事例検討会の実施を目指していく。</p>	<p>【評価】 特別支援を持つ子、親にとって良いことだと思う。安心感があるから続けて欲しい。 ただ初めに、一般と支援級を決める際、もう少し考える時間が欲しい。内容が分からずとても悩むので、専門の先生にも早くみてもらい決断したい。支援級の先生とも会って決断したい。(学校側からも話を聞きたいので。)不安が和らぐので。</p> <p>【評価】 障害はもちろん、小さな学校での課題である幼稚園から中学校まで人間関係が変わらないのは大変だと思いますし、一定の価値感の中で育ってしまうので、他の田舎の生徒や外国人などと交流して学ぶ時間を設けて欲しい。</p>
<p>[1-2-6] 図書に親しみ、読書好きを増やし、好奇心を刺激する教育の実践</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら各事業を展開することができた。(ブックスタート、移動図書、読書チャレンジ、図書室まつり等) →11事業、図書室だより毎月発行、小中学校巡回毎週2回</p>	<p>・感染症対策を講じながら参加者同士の交流を図ることに苦慮した。</p>	<p>・本に触れる機会をより多くの町民に広げ、親しんでもらえるよう、各団体と協力連携を強める。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【提案】 図書館新設に伴い、新たなイベント等をやっても良いと思います。</p> <p>【提案】 昔の和歌にみられる遊びに似ている手法で又吉のyoutubeが面白いです。 このような読書と国語を取り入れた授業はどうでしょう？</p>

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～

施策 1-3 生涯学習・スポーツの推進「いきいきと学び健康的で心豊かな人生を送るための生涯学習・スポーツの推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎誰もが、生涯にわたりいきいきと学び、活動しながら、暮らしていける環境が整っています。</p> <p>◎年代に応じた多様なスポーツ機会が確保され、年間を通じたスポーツ、文化事業(夢を与える事業)が展開されています。</p> <p>◎町民ニーズに応じた多彩な生涯学習、社会教育メニューが充実しています。また、町外からの来訪者に対しても提供され、交流人口・関係人口の拡大、外貨獲得、移住促進に寄与しています。</p>	<p>[1-3-1] 生涯スポーツと健康づくりの推進</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら工夫し、対策がとれるものは実施できた。保健福祉課との連携事業も、実施してから運動の継続が図られてきていることやトレーニングルーム活用につながる運動教室も実施することができた。「総合型クラブかるっちゃつべつ」事業との連携し、健康維持につなげることができた。 →ゴールドスポーツ教室全24回実施、健康づくり教室全19回実施等</p>	<p>・コロナ禍で自宅に引きこもりがち生活となり、体力や筋力の低下、肥満などが懸念されていることから、運動機会の創出のための継続した事業展開が必要。</p>	<p>・ウォーキングマップ整備に向けて高校生ボランティアサークルひまわりが中心となって「みどころマップ」を作成する。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【提案】 冬場の散歩やファットバイクなどのコースとして、スキー場を圧雪するときだけでも良いので、21の森やパークゴルフ場を圧雪して道をつけて歩けるようにしてみてもはどうだろうか？ 冬の21の森も気持ちが良いですね。</p>
<p>◎世代間交流、異年齢交流が活発に行われています。</p> <p>◎若者の拠点(たまり場、しゃべり場)が確保されています。</p> <p>◎使いやすく行きやすい図書館があり、誰もが勉学・情報収集に関心を持ち読書を楽しみ、本に親しむまちとなっています。</p> <p>◎家庭教育を通じた「親学び」、「子育て学び」による親子成長機会が確保されています。</p>	<p>[1-3-2] ニーズに応じた多様な社会教育事業の推進</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症防止を講じながら工夫し、対策がとれるものは実施できた。コロナ禍だからこそ集う・体験する・学ぶことの大切さを感じられる時間となり、仲間に会える喜びや会話の楽しさなどにも学びあえる仲間の存在を実感できる機会となり、欲求やストレスの解消につながった。年代を超えたつながりの創出を目指した。 →高齢者大学(学生53名、16講座、延べ参加者数658名)、アソビバ！チミケップ湖カヌー体験(参加者9名)、もちつき大会(参加者25名)を実施。社会教育講座では、サツドラホールディングスを講師に「スマホ教室」を実施(参加者16名)、ホラネロコンサート(講師:ホラネロ、参加者21名)等</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの事業実施の工夫。</p>	<p>・日常生活の中で多様な学びを提供し、新たなコミュニティと生きがいの場の構築。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 いつもいろんな取り組みありがとうございます。</p> <p>【評価】 スマホ教室はもっと増やすべきだと思います。アプリ・LINE等の利用促進には不可欠だと思います。また、携帯会社等も町内には無いので、聞きに行けない高齢者は多いと思います。</p>
	<p>[1-3-3] 図書に親しみ、読書好きを増やし、好奇心を刺激する生涯教育の実践</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・新型コロナウイルス感染対策を講じながら工夫し、対策がとれるものは実施できた。小中学校教員との関係性を築くことにより、読書チャレンジや読書ノートなど町事業への取り組みにも理解と協力を得ることができた。</p>	<p>・コロナ感染症防止対策の観点から、ソーシャルディスタンスをとると、十分なスペースが確保できない。</p>	<p>・図書館OPENに向けて、資料・情報収集に努める。(郷土資料など)</p>	<p>【評価】 図書館楽しみです。頑張ってください。</p> <p>【評価】 図書館楽しみにしております！</p>
	<p>[1-3-4] 若者の拠点整備(たまり場、しゃべり場)</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・「津別町青年活動プロジェクトand」の活動は、メンバー17名で定例会8回、主催イベントの開催(出張サンタ)、広報活動、他団体との交流イベントを実施したが、コロナ禍で思うように活動できなかったことから、拠点整備に向けての検討は進んでいない。</p>	<p>・コロナ禍で活発な交流ができないことから、たまり場・しゃべり場集うの場の創出の検討ができない。</p>	<p>・活動PRの強化、町内外における青年同士の交流強化</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【提案】 若者の意見を取り入れて、需要がありそうなことなどをできる限り反映していけたら良いんじゃないでしょうか</p> <p>【評価】 丸玉さんなど20代が結構いるみたいなので、何か集まれる切っ掛けができるとよいですね</p>

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～

施策 1-4 まちづくり教育の推進「まちづくり・地域づくりに参画する地域人材を育成する教育の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎まちづくり活動を活発に行う人(活動人口)の比率が高まり、まちづくりに自主的に楽しんで参加する人が増えています。横の連携が強化されています。</p> <p>◎異世代間の交流が活発に行われています。</p> <p>◎まちづくりを応援、協力、連携を促進する気運がより醸成されています。</p> <p>◎まちづくり活動を担うメンバーの新陳代謝が進んでいます。</p> <p>◎胸を張って「津別を自慢」できる大人が増え、その言動を子どもが見聞して伝承されています。</p> <p>◎「ウエルカムつべつ」の土壤が醸成され、多くの人々が来町し、出会いが繰り返される町となっています(関係人口増加)。</p>	<p>[1-4-1] 「いいね」プロジェクト・「笑顔」プロジェクト・「応援し合う」プロジェクト</p>	<p>生涯学習課</p> <p>住民企画課</p>	<p>・津別小学校では、学校教育目標の中で、めざす子どもとして「心身ともにたくましくおもしろいのある子ども」とし、正しい言葉による挨拶や返事の指導を具体的に取り組んだ。</p> <p>・津別中学校では、学校教育目標の中で、生徒に身につけたいビジョンとして「他者を認め、思いやりを持って行動できる生徒」とし、自分の考えを自分の言葉で伝える取り組みを推進した。</p> <p>・広報番組「タウンニュースつべつ」を通じて、まちづくりの活動を発信することで、応援する風土、津別を誇れる風土を醸成している。</p> <p>→計12回放送、YouTube視聴回数16,484回(令和4年度)</p> <p>→計13回放送、YouTube視聴回数16,500回(令和3年度)</p> <p>・町の公式YouTubeチャンネルを開始し、町で行われているイベントや町で活躍している人物・団体等を映像を通して町内外に発信した。</p>	<p>・コロナ禍によるマスク着用で児童生徒の顔と顔を合わせたコミュニケーションが十分に図れなかった。</p> <p>コロナ禍でマスクを着用していたため、取材者の表情を伝えることが難しい。</p>	<p>・今後は、顔と顔を合わせたコミュニケーションも図りながら、お互いに思いあえる子どもたちになれるよう取り組みを進めていく。</p> <p>・放送を通じて、より具体的な形として、応援し、認め合う風土、文化を作っていく。</p>	<p>【評価】 小学校、中学校続けてください。</p> <p>【提案】 まちひとづくりの補助金は良い制度だと思います。しかし継続のハードル高く、私も申し訳ないかんじであります。もう少しカジュアルに一発ものでも町のために若者がアイデアをだして実行できる枠組みがあっても良いかと思えます。</p> <p>【評価】 タウンニュースつべつ、とても良いと思います。知らなかったことを知れるので続けてほしいです。</p> <p>【評価】 タウンニュースつべつで毎年4月に特集する「津別町のフレッシュマン特集」は本当に良い企画だと思います。すでに映像で知っているのですが、どこかの場所で、初めてお会いしてもすぐにわかりますし、親近感も。こういう形で新入社員が地域に溶け込めるお手伝いをしているところは、なかなかないのではと思います。</p>
	<p>[1-4-2] 多世代交流、異業種間交流の促進</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・道東エリアリノベーションプロジェクトのパイロット事業として立ち上げた起業支援型ワーキングスペース、地域融合型ゲストハウスにおいて、多世代交流、異業種交流が図られた。</p> <p>→地域融合型ゲストハウス 延べ宿泊者数373名、多世代・異業種交流イベント27回(令和4年度)</p> <p>→起業支援型ワーキングスペース 動画生配信 1回(移住定住サポートデスク×THE井戸端会議ガッチャンコ)</p> <p>・道東エリアリノベーションスピンオフ企画として幸町地区を中心としたリノベーションウィーク2022を4月に実施し、空き家という共通点で多世代、異業種の交流が生まれるきっかけを生み出した。</p> <p>→参加者延べ約120名(令和4年度)</p>	<p>コロナ禍で普及したオンラインを用いたイベント実施においては、イベント参加者が気軽に参加できる一方、イベント参加者の温度感等を捉えるのが難しい。</p>	<p>・コロナの影響が減少してきたことを踏まえ対面での交流を復活させていくが、コロナ禍で普及したオンラインでの交流も引き続き実施していく。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 夏まつり等にて協力体制もあるので、良いと思います。</p> <p>【評価】 アイスキャンドル祭りなどの役員は、一つの行事を通して集まるので多世代異業種交流になっているのかなと思ったりします。何か枠組みがあると集まりやすいのかもしれない。</p> <p>【評価】 町内町外を問わず、みなさんが楽しく交流し、更に津別を知り、みんなを知り、津別って楽しいと思っただけの機会を今後も増やしていければと思っています。</p>

<p>[1-4-3] 交流・発信による人材育成</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・広報番組「タウンニュースつべつ」を通じて、様々なまちづくりの活動(4年度はtake actionミーティング)にスポットライトを当てることで、まちづくり活動参画へのモチベーションを上げ、まちづくり人材の拡大を図った。 →計12回放送、YouTube視聴回数16,484回(令和4年度) →計13回放送、YouTube視聴回数16,500回(令和3年度) →住民満足度調査「行政の情報発信等」の「満足」、「おおむね満足」の割合73.3%(令和3年度)</p>	<p>・特にまちづくりへ参画する若者の必要性が増しているため、連携を図る必要がある。</p>	<p>・まちづくりに参画し頑張っている人材や団体の成果を媒体を使って、町民に広く発信することで人材の拡大を図る。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 役場職員を中心に若者は一定数いるように感じるが、町づくりに参画したいと考える若者が少ないのが課題であり、いかに若者をその気にさせるかが重要だと思う。行政と民間の若者同士が共に町づくりに参画することが必要ではないか。</p>
<p>[1-4-4] 住民提案型のまちづくり方策・条例等の検討</p>	<p>住民企画課</p>	<p>【R6年度から】 ・未着手</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>【提案】 ふるさと納税の一部の予算を町民提案型につけて、仕組みづくりの勉強会や実際に何か形になりそうなものがあれば取り組むというのはどうだろう。</p>
<p>[1-4-5] 「津別町まちおこし大学ver.2.0」の実施</p>	<p>住民企画課</p>	<p>【R4年度から】 ・北海道大学公共政策大学院公認課外活動団体HALCCと津別高校生との高大連携事業として、「調べる力」「考える力」「伝える力」を身に着けることを目標として、理想の津別を考えた高校生総合戦略を作成。大学生を通じてまちづくり人材の育成を図った。 →高校生による提案10件(令和4年度)</p>	<p>・高校生、大学生ともに高大連携事業に充てられる時間・期間に限りがあること、また高校・HALCC・役場の人員の入れ替わりがあることから、毎年度同様の事業内容に落ち着いてしまう。</p>	<p>・限られた時間の中で効果的な事業となるよう、3者間での綿密な協議を行うことや町内事業所や町民との交流の場を設けていきたい。</p>	<p>【評価】 頑張ってください。</p> <p>【評価】 高校生と大学生というフレッシュな枠組みの中で企画するのは素敵ですね。もう一方で元来のまちおこし大学は1000万の補助金の中で地域で活躍する若い人たちの学び場であったのかとも思います。その枠組もあると良いなと感じます。</p> <p>【評価】 素晴らしい事業なのに、単発・マンネリで終わるのは勿体ないです。変化があるよう期待しています</p> <p>【評価】 今年のハルクメンバーは、ハルク×津別高校の取り組みや成果発表会で日頃感じていることについて、話を聞きにきてくれました。そこで伝えたのは、「成果発表会の提案内容をまとめる過程で、ぜひ現場の声を聴く時間をとって欲しいということでした」なんだか今年はより近い関係で話ができる気がしてうれしいです。</p>

2 保健・医療・福祉「支えあい、安心して住み続けられる地域づくり」～誰もが、いつまでも、いきいきと、安心して住み続けられるまち～

施策 2-1 保健・医療の充実「安心した生活を支える地域医療の充実と健康で暮らせる環境づくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当 部署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援 (Assesment, Encouage, Support)
<p>◎津別病院が存続し地域医療が維持されており、誰もが必要な時に必要な医療を受けることができます。</p> <p>◎「地域包括ケアシステム」の向上・推進により、医療・福祉・介護・行政(教育)に関わる福祉サービスが一体的に受けられるようになっていきます。</p> <p>◎“病気になるっても”、“介護が必要になっても”、住み慣れた地域で安心してその人らしく暮らし、最期を迎えたいという希望が叶えられるまちとなっています。</p> <p>◎健康寿命延伸に向けて町民一人ひとりが自ら健康づくりに取り組んでいます。</p>	<p>[2-1-1] 津別病院を中心とする地域医療体制の維持</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・コロナ禍にあり、津別町のワクチン接種を一手に引き受けていただき、町内に医療機関があることの重要性を改めて感じました。</p> <p>・コロナ禍で時間のとれない中ではあったが、地域医療の中核拠点として、町民にとって不可欠な病院として、地域医療体制の維持・改築に向けた協議を進めるため会社・病院の意思・希望・方針を示していただくため令和4年5月に要望書を提出した。</p> <p>・地域医療体制維持のため、町内唯一の医療機関である津別病院に継続的に助成を行った(2億4千万円)。</p>	<p>・コロナ禍等で入院患者・受診者が減少し、病院経営的にさらに厳しい状況が続いている。</p> <p>・建物、設備の老朽化の進行が著しく、建替えへ向けた、将来的な医療体制の構想づくりが急がれる中、総合計画に盛り込まれた地域医療の在り方を基に、会社・病院の希望・方針を示していただくため町から要望書を提出した。</p> <p>・コロナ禍もあり、現時点では具体的な回答がいただけていない状況である。</p> <p>・企業立病院であるため、将来的な医療機関としての経営・運営方針も会社の経営に大きく左右される。</p>	<p>・令和4年末に社長と町長で面談し、双方出席の元、できるだけ早期の協議を行うことで合意したため、会社・病院の準備が整い次第、協議を開始する予定。</p>	<p>【提案】 無理なのは分かるが、小児科、耳鼻科が入って欲しい。</p> <p>【質問】 病院経営が厳しい状況という記載があるが、今後も企業立病院という形態で存続するのか、現時点で丸玉木材㈱の意向や方針はあるのでしょうか？</p> <p>【評価】 高齢者が増加していることでもありますので、設備の充実をより一層考えていかなければならないと思います。</p> <p>【評価】 マストだと思います。よろしくおねがいします！</p> <p>【評価】 町が望む形を描いてみてはどうですか？現状では、無医村・無薬局地域になってしまうと思います。崩壊してしまうと再建は難しいです。医療スタッフの流出も今後は問題になると思います。特に道東では深刻な課題になっています。</p> <p>【評価】 まちに総合病院があることの重要性を強く感じています。在宅医療の取り組みもすごいことだと思います。また、限られた中で、できることできないこともあるのわかります。ただ、最近まわりでできのは子供が何かあった場合の受け皿(小児科)が町内にあるといいということです。</p>
	<p>[2-1-2] 地域包括ケアシステムのさらなる向上・推進</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・高齢者が可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けることを目指し、医療・介護の関係者や地域住民が連携し対応を協議する会議や研修会等を行った。 (令和4年度実績) 津別町在宅医療・介護連携推進会議: 1回/介護サービス事業所連絡会議: 10回、多機関で個別に高齢者を支え、ケアマネジメントの質向上を目的とした地域ケア会議: 3回/自立支援型地域ケア会議4回、介護予防・生活支援体制整備事業協議会: 1回</p>	<p>・支え手となる専門職の確保と地域住民の高齢化によるマンパワー不足の懸念される。</p> <p>・高齢者本人とそれを支える支援家族にも多くの課題がある複合ケースが増えてきている。</p>	<p>・若い世代も役割をもって支えあい活動に参加できるよう検討継続する。例)LINEアプリを活用したSOSネットワークの登録推進、『認知症サポーターステップアップ講座』の開催、幅広い分野でボランティア登録 など</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 様々な取り組みありがとうございます。</p> <p>【評価】 目標の達成のためにも、医療スタッフの確保・モチベーションの向上が大事だと思います。マンパワー不足は深刻だと思います。</p>

<p>[2-1-3] 介護予防、重症化予防、リハビリ等の予防に向けた取組のさらなる重点化</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・介護保険制度による各種介護予防事業を計画し、社協や町内団体と連携しながら実施した。 (令和4年度実績) 健康教育:1回/26名、いきいき百歳体操開催支援:6団体、ふれあいサロン:13団体(運動サロン含む)、高齢者運動教室(旧転倒予防教室):24回/延193名、通所型介護予防(ミズナラ倶楽部):132回/延560名※一部事業は津別社協、かるっちゃつべつへ委託し実施。 ・リハビリテーション専門職の派遣ならびに相談指導(令和4年度実績) 津別病院のリハビリ専門職が同行し、家庭訪問並びに介護予防を目的に集う場所で個人相談や集団指導を行った。また、住宅改修を予定している高齢者宅で、身体状況に合わせた助言等を行った:33回 今年度は対象者に伴う支援スタッフも参加する機会が多く、リハビリ専門職の指導を積極的に聞くことで介護の質向上に繋がる傾向となった。 →家庭訪問:12回、家庭訪問以外の個人相談等:11回、ミズナラ倶楽部3回、百歳体操等団体6回、ふれあいサロン等4回</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響により令和4年度も「住民参加型」の介護予防事業を積極的に展開することが出来なかった。</p>	<p>・国のコロナウイルス緩和に伴い、これまで継続している事業の積極的なPRをしていく。 ・リハビリテーション専門職とも協力しながら、高齢者自身が主体的に取り組めるような動機付けを継続する。 ・高齢者自身のモチベーションにも繋がるよう、介護予防に資する事業評価を継続する。</p>	<p>【評価】 続けてください。 【評価】 様々な取り組みありがとうございます。 【評価】 津別のふれあいサロンの取り組みを他エリアで話した時にすごい！と驚かれ、改めて津別の取り組みが先進的なものなんだということを知りました。最近、なかなかお手伝いできていませんが、今後も時間があれば相生サロンに参加していきたいです。</p>
<p>[2-1-4] 自発的な健康づくり・健康維持に向けた取組の推進</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・特定健診、各種がん検診:令和3年度は新型コロナ感染予防策をとりながら、例年どおり夏と秋の集団健診を実施した。昨年度に続き、受診率向上を目的に個別勧奨ハガキを送付したことで、がん検診の受診率が増えた。 ・健診結果説明会:健診の結果の報告の方法は、健診結果内容に応じて、面談や郵送をしている。面談の場合は、日にちを設けて健診結果を個別に説明の機会をつくり、一方的な指導にならないよう生活実態に合わせて実施した。特に「特定保健指導」「糖尿病性腎症重症化予防」の対象者へ継続的な関わりを意識して行った。 ・津別町健康課題を健診や医療データを基に分析、課題の検討を行い、健康増進事業全般の見直しをした。その結果、数年継続実施してきた栄養運動教室は休止し、対象者を絞った支援と一般町民への啓蒙活動の両輪で事業を展開する方針を出した。</p>	<p>・がん検診の受診率はやや向上がみられたが、特定健診受診率は低い状態が続いている。 ・健診結果説明後の継続的な関わり体制をより充実させていく必要がある。 ・生活習慣病の予防、健康意識の向上を図るための具体的な活動方法を検討していく必要がある。</p>	<p>・受診率向上のため効果的だった、個別ハガキ勧奨を実施するとともに、R5年度に向けて新たな方法を模索する。 ・健診結果の個別支援体制を更に整備し、効果的な支援を実施する。 ・健康に関心をもってもらうための啓蒙活動に取り組む。</p>	<p>【評価】 個別ハガキとても助かります。続けてほしいです。 【評価】 1-3-1でも関連しますが、フットサル大会等過去にやっていたことあるので、コロナ情勢もありますが、また開催しても良いと思います。 【評価】 様々な取り組みありがとうございます。</p>

2 保健・医療・福祉「支えあい、安心して住み続けられる地域づくり」～誰もが、いつまでも、いきいきと、安心して住み続けられるまち～

施策 2-2 福祉の充実「つながり、共に支え合い、誰もが生きがいを持って暮らせる『地域共生社会』のまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援 (Assesment, Encouage, Support)
<p>◎年代、性別、障がいの有無などに関わりなく、地域全体で支え合い、共に生きる「地域共生社会」が構築され、地域コミュニティの力を活かした、地域での見守り・支え合い活動が活発に行われています。</p> <p>◎行政・地域・関係機関が一体となった包括的な支援体制の構築が図られ、充実した支援により、より一層高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる町となっています。</p> <p>◎高齢者が培ってきたことを活かし、より一層生きがいと楽しみを持って暮らせる町となっています。</p> <p>◎障がい者の就労の場が確保され、社会の一員として生きがいを持って働くことのできる町となっています。</p>	<p>[2-2-1] 地域の支え合いによる地域福祉の推進</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・認知症の方やその家族を地域の中で見守り、支えていく体制づくりの強化を図ることを目的に事業実施した。メール配信登録者の伸び悩みに対し、「LINE」アプリを活用した登録方法を3年度から開始。(令和4年度実績) →メール配信システム「ささえねっと@つべつ」登録者:メール409人、LINE420人/配信2件、徘徊模擬訓練:1回/17名 ・認知症高齢者が住み慣れた地域で生活を継続するために、医療、介護等の連携強化による地域の支援体制を構築する活動を行った。(令和4年度実績) →認知症初期集中支援チームによる支援:5人 →認知症地域支援推進員による活動(津別社協委託):「認知症の人にやさしいお店」登録:13事業所、認知症サポーター養成講座:2回/32人、認知症カフェの開催:3回/延25人、家族茶話会:1回/2人、認知症高齢者見守り事業:12回/延51人 今年度は、認知症サポーター受講者を対象にステップアップ講座を開催。地域で認知症の方がやりたいこと、支援してほしいことなどを更にサポートする体制を作ることができた。</p>	<p>・独力で登録が難しい町民に対し、普及に工夫が必要。 ・認知症高齢者とその家族を支えるために、どのような場が求められるのか常にリサーチが必要。 ・ステップアップ講座受講者の確保のためのリサーチが必要。</p>	<p>・高齢者の集まりに職員が出向き、PR並びに配信システムの登録の手伝いを継続する。 ・認知症高齢者とその家族を支える場について内容を精査する。 ・認知症カフェを既存の店舗拡大、認知症サポーターステップアップ講座受講者の確保と講座回数増。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 様々な取り組みありがとうございます。</p>
<p>◎認知症や障がい、発達障がい、特別支援教育に対する町民一人ひとりの理解度が向上し、相互に尊重し合う、福祉に優しい町となっています。</p> <p>◎多様な主体が参加する地域福祉・ボランティアが活発に行われ、福祉事業の先進地・中心地となっています。</p> <p>◎誰もが居場所と役割のある全世代活躍のまちづくりを目指しています。</p> <p>◎社会的孤立者といわれている生活困窮者やひきこもりの状態にある本人・家族を適切に支援する取組を推進します。</p>	<p>[2-2-2] 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境づくり</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・高齢者が培ってきたことを活かし、生きがいと楽しみを持って社会参加できるよう、規定に則りボランティア活動を行った際にポイントを付与する有償ボランティア事業を実施した。(令和4年度実績) →介護予防いきいきポイント事業 事前研修兼フォローアップ研修:1回、新規登録者1人/累計111人(65歳以上)、活動内容:7か所、延108人 →生活サポートセンター事業 フォローアップ研修:1回、新規登録者0人/累計77人、活動利用者:延36人、サポーター延45人 ・高齢者の様々な権利を守ることを目的とし、虐待防止や成年後見・市民後見推進に関する取り組みを行った。(令和4年度実績) →市民後見人フォローアップ研修:1回/16人 今年度は、コロナ禍で3年間行えなかったオホーツク管内市民後見人活動交流会を津別町にてハイブリッド形式で開催した。3年ぶりに各地域の市民後見人が、オンラインを通じてお互いの活動状況や思いを共有することができた。 ※一部事業は津別社協へ委託し実施。</p>	<p>・コロナ対応で活動場面や受け入れ場所が少なかった。(徐々に緩和はされていたが) ・高齢者自らも、主体的に社会参加できるような動機付けやモチベーションの維持で、様々な方法での体制づくりの継続が必要。</p>	<p>・身近な地域で、社会参加や見守りが行える場の開催を支援する。例)ふれあいサロン、いきいき百歳体操、各種のボランティア事業等 ・高齢者本人も役割ややりがいを持って社会活動に参加できるように、ポイント付与などの仕組みを継続する。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 現在様々な対策もされているので、ぜひ継続していただけたらと思います。</p> <p>【評価】 社会参加って大事ですよ、出ない方が弱って行く気がしますので、そういう枠組みはありがたいです。</p> <p>【評価】 ポイント事業は素晴らしいと思います。</p>

<p>[2-2-3] 予防を重視した在宅福祉・介護サービスの充実</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・高齢者の実態把握を目的とし、介護予防事業の参加状況や関係者からの情報提供、家族からの相談、職員が家庭を訪問して生活状況を把握した。 【個別訪問】年度内に80歳、85歳、90歳の年令に到達する者を個別に訪問し、生活状況を把握した。(令和4年度実績)→80歳:41人、85歳:22人、90歳:3人、前年繰り越したまたは年齢外:26人 【安否確認訪問】生活支援員(ホームヘルパー)が定期的に訪問することにより、登録者の生活・健康面の変化を把握し早期に生活支援方法を検討した。(令和4年度実績)→12回/延81人</p>	<p>・これまで介護状態になってから対応していた高齢者について、「事前対応型」の支援が行えるようになったが、発見後のフォローについてマンパワー不足である。</p>	<p>・介護予防のため生活状況の改善が必要な高齢者に、適時必要な支援が行えるよう、地域住民とも連携できる場の継続。例)住民主体で運営する集まりや、身近な福祉相談所「ぽっと」の開催支援等</p>	<p>【評価】 続けてください。 【評価】 特にコロナ対策(ワクチン接種)においては、かなり迅速な対応とと思います。すばらしい対応だと思えます。 【評価】 歩行速度と病気とか連動するという話を聞いたことがありますが、スマートウォッチとかで管理する時代とかに希望があれば対応する。これが良いかわからないですが。 【評価】 まずは、人材の確保・育成ですね。待っていても集まらないので、新たな取り組みが必要かと思えます。 【評価】 地域に深く浸透しているから、何かあった際にみなさんにご質問するとすぐ回答をいただけます。これって本当にすごいことだと思います。</p>
<p>[2-2-4] 障がいのある人が自立しやすい環境づくりの推進</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・令和4年9月から町内に生活介護事業所が開設しました。今までは北見市まで保護者等が送迎しなければ生活介護は利用できませんでしたが、町内事業所は送迎付きであるため、利用者だけでなく保護者等の負担も軽減されています。令和4年度新規生活介護利用実績⇒4人 ・関係機関と連携し、町内に在住している障がい者の実情アセスメントを実施することにより、適切なサービスに繋げることができた。 →就労系サービス:新規利用者 5人、総利用人数 23人(町外事業所含む) 共同生活援助(グループホーム):新規利用者 3人、総利用人数 24人(町外事業所含む) 児童通所サービス:新規利用者 4人、総利用人数 23人</p>	<p>・就労系サービスに繋げることができたケースもある一方、町内に雇用の場(サービス事業所)が少ない状況に変わりはない。 ・就労系サービスと同様に、共同生活援助(グループホーム)についても事業所が少なく、女性用グループホームについては町内事業所がない状況である。 ・農福連携の話し合いがなかなか進まない。繁忙期のみの雇用では安定したサービス供給とは言えないので、通年雇用についての検討が必要である。 ・当事者意見を聴取する機会が少ない。</p>	<p>・定住自立圏構想の枠組みの一つとして1市4町で「北見地域地域生活支援拠点」となる基幹相談支援センターが設置された。今後も他市町とも情報を共有しながら、社会資源やニーズについて検討していく。 ・当事者の意見聴取の場について設置を検討する。</p>	<p>【評価】 続けてください。 【評価】 事業者の方々や、そこに行かれている利用者の方含め、よく町内イベントに参加してくれます。また、事業者側でも独自イベントを開催してくれるので、私たちも現地に行ってみなさんにお会いする機会も増えていきます。そういったところから、町内の方との関係性が築けたりすることいいなと思えます。</p>

3 成果基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-1 交通環境の整備「快適・安心で潤いのある生活を支え人とまちの魅力をつなぐ交通環境の確保」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援 (Assesment, Encourage, Support)
<p>◎地域交通(公共交通)として移動ニーズに対応した移動サービスが確保されており、町民の交通環境が整備されています。</p> <p>◎町民の潜在力も含めた地域力が発揮され、地域に最適な利便性の高い生活交通等、地域交通の維持・確保が進められています。</p> <p>◎新たな技術の進歩を踏まえ、地域の実態に即した新たなモビリティサービスの導入検討が進められています。</p>	<p>[3-1-1] 津別町の地域特性に応じた面的な地域交通ネットワークの再構築</p>	<p>建設課</p>	<p>○津別町地域公共交通計画に基づき、タクシー利用助成券交付事業及びコミュニティバスの運行を実施した。</p> <p>タクシー利用助成券発行者数 345人/年 タクシー利用助成券発行枚数 15,060枚/年 タクシー利用助成券使用枚数 8,540枚/年</p> <p>コミュニティバス利用者数 1,021人/年</p>	<p>近い将来に直面する運転手 担い手不足(運転手の確保)</p>	<p>利用者ニーズに即したまちバスの運行時間等の見直し及び町内外交通の持続確保</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 運転手の担い手不足について、運転免許取得に対する助成により免許取得者は増えると思うが、同時に各事業所において免許取得後の重点的な教育指導が必要になる。</p> <p>【評価】 ドリーミントオホーツクで来られた方が、乗り継ぎに10分ほどしかなくて、ちょっとでも遅れると乗り遅れてしまうというケースを聞きました。中々利用者は少ないと思いますし、町民の利用が前提だと思いますが、他のまちからスムーズに津別まで来れるとよいなと思います。</p>
	<p>[3-1-2] 地域交通(バス)の利便性向上と利用促進に向けた取組の推進</p>	<p>建設課</p>	<p>○スクールバス予約システム導入 ～令和4年12月1日より試験運用中</p> <p>○北海道オホーツク地域等公共交通活性化協議会へ参画 ～北海道オホーツク地域等公共交通計画策定</p>	<p>近い将来に直面する運転手 担い手不足(運転手の確保)</p>	<p>利用者ニーズに即したまちバスの運行時間等の見直し及び町内外交通の持続確保</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 現在、対策中と思いますが、このまま継続していただけたらと思います。</p>

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-2 住環境の整備「自然と調和し、安心で快適な住環境が整備された住みやすいまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当 部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<ul style="list-style-type: none"> 若者や子育て世帯の定住促進に向けた多様な住環境が確保されています。 高齢者、障がいのある人にとって安心して住みやすい住環境が確保されています。 誰もが、ライフスタイルやライフステージに合わせて住み替えができる住環境が整備されています。 空き家バンク制度が町内外に広く浸透し、空家・空き店舗が定住促進・町の活性化に寄与しています。 町内在勤者や若年層の移住・定住が進み、日中と夜間、平日と週末の人口格差が少なくなっています。 	<p>[3-2-1] 定住促進に向けた住環境整備の推進</p>	<p>建設課</p>	<p>・10年以上の定住確約を条件に、ふるさと定住促進奨励金を補助。新築分4件780万円、中古購入分6件160万円、改修分16件656万円。</p>		<p>さらに、ふるさと定住促進奨励金制度の内容を充実し継続する。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 1-1-4の同じ ○住む場所が課題になっていると思います。空き家も住める住宅が少なく、企業も探しますが住む場所がなく町の一番の課題ではないかと思えます。各部門と連携して、補助金も良い仕組みができれば良いと思います。</p> <p>【提案】 ・昨今の経済状況や社会背景に起因して、新築と比較すると改修工事(リフォーム)が増加している。これにより、住宅改修補助金や中古住宅購入補助金を申請する方が多いため、改修や中古住宅購入に関する補助金の増額を検討して頂きたい。 ・新築補助金の該当要件である床面積80㎡以上の要件緩和を検討して頂きたい。(比較的小さな新築を希望される方もおり、床面積要件で該当しないケースが数件あった)</p> <p>【提案】 各種支援金があるのは大変助かります。ただ、他から津別に来て住もうと思った人が、最初から家を購入するのはハードルが高いですし、すぐ住める状況にありません。津別には、転勤族・新婚さん・若者移住者など住まいがみつからなくて困っている人がいます。 そのみなさんは、まず賃貸を希望されます。(最近では戸建賃貸希望者が多いです)なぜなら、住んでみなければこの土地ですと生活できるかわからないからです。(いくら気に入った町でも、実際に住んでみなければわからない。冬の不安も含め)その層を取りこぼしている現状は、もったいないです！今一番簡単に津別に移住できるのは、高齢者年金暮らしの方です。受け皿は町営住宅(賃貸)。 特に津別で就職が決まっている方は最初に津別に住まない限りは、、町外から通うこととなります。 本当にこれでいいのでしょうか？そこで、他の町で取り組み事例がある、転勤族・新婚さん・若者移住者など住まいがみつからなくて困っている人が、誰でもすぐ住める賃貸物件として「定住促進住宅」を進めてはいいでしょうか？</p>
		<p>保健福祉課</p>	<p>・高齢者が住み慣れた自宅で暮らし続けるために、介護保険制度を利用した福祉用具の購入、手すりの設置や段差解消などの住宅改修について、負担割合に応じた費用の支給を行った。(令和3年度実績) →福祉用具購入:28品、住宅改修:延28件</p> <p>・障がい者については日常生活用具等給付事業があり、障がいの種別により手すりの設置や段差の解消、扉の変更などの住宅改修を行うことができる。(令和4年度実績)⇒0人</p>	<p>・町全体の課題として、老朽化した持ち家の管理や、段差が多い家での生活について苦心している高齢者が多い。</p> <p>・借家の場合、家主が改修の承諾をしないことが想定される。</p> <p>・町内における住宅改修は、介護保険制度に該当する高齢者がほとんどであるため、障がいのある方の住宅改修実績は少ない状況です。</p>	<p>・高齢者が安価な家賃で安全に住める、コンパクトな住まいの確保。</p> <p>・制度の普及啓発を図っていく。</p> <p>・障がい者から住宅環境等の相談があった場合は、住宅改修事業に該当する場合もあるため丁寧な説明・対応を心掛けます。</p>	

<p>[3-2-2] 空家対策事業のさらなる推進と制度活用・浸透に向けた情報発信の強化</p>	<p>建設課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空家等の除却を進めるため、空家等の撤去に対し1件50万円を限度に補助。13件638.5万円。 ・空家等の利活用を進めるため、空家の賃貸を目的として改修する方に1件50万円を限度に補助。R4は申請なし。 		<p>空家等撤去促進事業補助制度、空家活用促進補助制度を継続。 空家の適正管理の意識醸成を図るため、広報棟での周知。 空家予備軍の把握と空家を放置させないように働きかける。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【提案】 前項に引き続き、産業廃棄物に係る運搬費や処理費用も年々上昇しているため、解体補助金の助成額について増額を検討して頂きたい。 ・空き家バンクに長期掲載し成約に至らない土地や建物については、一定期間を経過後、定める割合で価格を下げる制度を設けてはどうか。(予め所有者には掲載時に同意を得る) ・物件の所有者には売れそうな価格や相場に見合った価格設定をして頂く必要があるのではないか。</p> <p>【提案】 空き家バンクHPを立ち上げた2018年には、町内の空き家全戸調査の結果をもとにアプローチをおこないました。それ以降、空き家の全戸調査は行われているのでしょうか？調査をおこなっているのであれば、その結果を使用させていただきたいのですが、使用させていただくことはできないのでしょうか？</p> <p>【質問】 気軽に活用できるように、補助を増やすのは難しいのでしょうか？修繕費を考えると、他市町村を選択してしまう気がします。</p>
	<p>住民企画課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンクの活用により空家等情報の一元化及び利用者への紹介等を通じて空家利活用を図った。 →空き家等延べ登録数：空家20件(うち新規17件)、土地32件(うち新規11件) →利用希望者延べ登録数：101名(うち新規28件) →マッチング件数：16件 ・町内広報誌への周知チラシ折込や、町外者に向けて固定資産税納付書への周知チラシ折込、イベント等を利用した制度及びサポートデスクの周知等を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家について、登録が頭打ちになってきていることから、更なる物件の掘り起こしを行う必要がある。 ・長期間成約に至っていない物件もあることから、何らかの取り組みが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役場が提供可能な空家情報についてはサポートデスクと情報共有していくほか、自治会や建築業者との繋がりをより深めることで、新たな物件の掘り起こし等において連携していきたい。 ・オンラインツールを用いた町内外の物件登録希望者・利用登録希望者に対するアプローチを積極的に行っていく。 	<p>【評価】 北見工大や技術専門学校などで、空き家をリノベーションしてもらうなど、学生が自らの手でチャレンジする場所などもあれば面白いかと思えます。情報発信にもつながりますし。</p>
<p>[3-2-3] 次期住宅整備計画策定に向けた検証と町民ニーズの把握</p>	<p>建設課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き町営住宅入居希望者の入居理由の聞き取り ・入居案内をHPに掲載している。 		<p>現在の住宅の現状を整理する。(今後の修繕見込、使用可能年数など)</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 町営住宅や町なか団地の住宅設備機器は、耐用年数や使用状況に応じて定期的にメンテナンス(点検・修繕・交換)する必要がある。完全に壊れてからでは大規模な修繕費用がかかってしまうのでは。</p> <p>【評価】 空地に太陽光パネルが多くみられる。土地の売買は仕方がないことだが、水道インフラや電気など住める場所に太陽光が乱立したり、町の中心地が太陽パネルばかりになっても寂しいきもするので、景観条例等である程度対応していった方が良いのではないかと思います。</p> <p>【評価】 ぜひ、多くの人の意見を聞いていただければと思います！特に困っている層(若者や、人を採用する企業側)の意見を聞いていただき一緒に考えられる体制づくりをご検討ください。</p>

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-3 生活基盤の整備「ずっと暮らし続けたいと思える安全・安心な生活環境の整備」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当 部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>●町内で日常の買い物ができる環境が整っています。</p> <p>●町民が地元の美味しい野菜や特産品を気軽に購入することができますようになっています。</p> <p>●空家・空き店舗が減少し、すっきりとした街並みと景観が保たれたまちとなっています。</p> <p>●誰もが手軽に様々な情報を得ることが出来る情報通信網が充実しています。</p> <p>●災害時などいかなる場合においても、常に安全で安定した水の供給と生活排水の処理ができる環境が整備・保全されています。</p> <p>●冬期間でも誰もが安心して歩いて暮らせる中心市街地(まちなか)が実現しています。</p>	<p>[3-3-1] 買い物環境の充実</p>	<p>産業振興課</p>	<p>●起業等振興促進条例に基づき、2件の販売施設の改修及び機械等設備の更新を支援。町民の買い物環境の質の向上の一助になった。</p> <p>●R4もお買い物割引券を発行し、町内での購買促進の一助になった。</p> <p>●地元食材を活用した飲食物や特産品の販売拠点である、レストハウスつべつが営業を再開した。</p>	<p>●既存店主の高齢化。</p>		<p>【提案】 町民になくてはならない既存店も多く、多様な形態の事業承継が必要であると思う。最終的に民間事業者が自ら決断すべきことだと思うが、既存店の廃業は町の衰退に直接的に繋がるため、行政には民間が安定して事業を継続できるような施策を打ち出してほしい。(定期的に既存店主へのヒアリングも必要では)</p>
	<p>[3-3-2] 空家・空き店舗の利活用の推進</p>	<p>住民企画課</p>	<p>【再掲(1-1)】 ●買い物等利便性確保の観点から、まずはスーパーマーケット、バス待合、ハイヤー事務所、図書館が同居した複合施設「大通棟」が完成。オープンはR5年度を予定。ドラッグストアの整備についてはR5年度中に予算協議を行いR6年度に工事着工・完成を目指す。</p>	<p>●人が集まり賑わいや活気をもたらす仕掛け作りを民間事業者と連携して進める必要がある。</p>	<p>●引き続き、市街地総合再生基本計画推進協議会と、議会全員協議会で合意形成を図りながら、事業を進めていく。</p>	<p>【評価】 続けてください。 ドラッグストア早く出来てほしいです。</p> <p>【評価】 グリーンマートも新しくたちました。ただ、ドラッグストアがこない現状は正直ショックでした。</p> <p>【評価】 uberみたいな仕組みがあればよいですね。</p>
			<p>●空き家バンクの活用により空家等情報の一元化及び利用者への紹介等を通じて空家利活用を図った。 →空き家等延べ登録数:空家20件(うち新規17件)、土地32件(うち新規11件) →利用希望者延べ登録数:101名(うち新規28件) →マッチング件数:16件</p>	<p>●町内企業への就職が決まっているもしくは転勤で町内に引っ越す方で、すぐに住める賃貸物件を希望している方に対する物件や家族連れの方に対する賃貸物件がほとんどない。</p>	<p>●すぐに住める家族連れ向けの賃貸物件(戸建て)の掘り起こしや、移住が決まっている・決めている方を対象とした移住住宅の整備を検討していく。 ●リノベーションのメリット等を実感してもらえるようなイベントを実施する。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【提案】 すぐに住める戸建ての賃貸物件を整備するうえで、対象物件の老朽化が著しく、ある程度快適に住むためには改修費用が高額となる。改修費用が高額になると賃貸価格も上がるため借主の需要に見合わないことがある。リスクも多いため、結果的に改修を行う事業者が少なくなってしまう。改修費用について一定の補助が入ると課題解決に繋がる可能性があるのではないか。</p>

<p>[3-3-3] 町内施設における公衆無線(Wi-Fi)の充実</p>	<p>総務課</p>	<p>大通地区コミュニティ施設における公衆WiFi設置の準備を行った。</p>	<p>町民会館、中央公民館、さんさん館については、2016年設置から5年以上経過し故障してもおかしくはない状況ではあるため、状況を注視している。</p>	<p>大通地区コミュニティ施設における公衆WiFiを設置予定。</p>	<p>【評価】 公営・民間問わず、町内でWi-Fiが使えるスポットがわかるようになるといいかなと思います。既存の観光マップなどに記載する。もしくは観光協会HPや役場HPなどで見られるようにするなど。</p> <p>【提案】 リノベを含めた費用の総額を見る化してはどうでしょうか？ミニマムで開始できる利活用であれば、若者の起業も増えるのでは無いでしょうか？町内の制度を利用するからこそ、出来る事もあり、小さな出店が重なれば町も活性化すると思います。</p> <p>【評価】 引き続き「空き家×起業」の取り組みを通じて、まちを盛り上げていければと思います。</p>
<p>[3-3-4] 安心して快適な社会基盤を備えたまちづくりの推進</p>	<p>建設課</p>	<p>【水道ソフト】将来の浄水方法の変更及び給水区域拡張に併せ、事業認可の変更を行った。R2.12に老朽管路更新計画を策定し、R6年度より計画的に更新を行う。 【下水道ソフト】H30.12策定の下水道ストックマネジメント計画により、計画的に施設の更新を行っている。 【水道ハード】老朽化した高台低区配水池の改築更新に着手した。 【下水道ハード】下水道管理センターの耐用年数を超過した機械・電気設備及びマンホールポンプの制御盤を更新し、下水道環境が整備された。→処理場機械・電気設備、マンホールポンプ設備(R4) 【道路河川】各種修繕計画に基づき、橋梁4橋・舗装1路線・歩道2路線の修繕を実施。第2次となる橋梁長寿命化修繕計画(10年間)を策定。町内4路線の街路灯をLED化。</p>	<p>更新費用の増大により起債残高が増加しており、次世代の負担が大きくなっている。</p> <p>【道路河川】財源不足により舗装修繕計画に遅れが出ている。</p>	<p>【水道】上里浄水場の滅菌方法の変更(紫外線装置設置) 【下水道】公営企業会計移行に伴い、経営戦略を見直す。 【上水道】【下水道】給水人口の減少により料金収入が減収しており、今後の健全経営のため料金改定を検討する。 【道路河川】町道整備計画に基づき市街地の舗装未実施路線の整備を取り進める。</p>	<p>【評価】 維持管理は続けてほしいが、下水道料金が高すぎて悩ましい。</p>
<p>[3-3-5] 防災体制の整備</p>	<p>総務課</p>	<p>・職員等研修「避難所運営ゲームHUG体験会(70名参加)」を実施 ・出前講座「豊永第3自治会防災体験講座(20名参加)」と「津別小学校4年生 社会科(32名)」を実施 ・災害備蓄品(避難所毛布100枚、換気用大型扇風機10台、簡易トイレ1500回分)の資機材補充。</p>	<p>地域住民や関係機関との連携や情報共有</p>	<p>・職員等の訓練や研修機会の拡充 ・住民参加の避難所開設等の訓練実施</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【質問】 夏季よりも冬季の災害が致命的であるように思うが、冬季災害に着目した防災体制や補助暖房設備は整備されているのでしょうか？</p>

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-4 環境保全・エネルギー政策「『エコタウンつべつ』実現に向けた先進的なまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー(太陽光・バイオマス)の比率が高まり、石油燃料依存体制からの脱却を実現し、持続可能な循環型社会・低炭素社会に近づいています。 木質バイオマスによる暖房システムが町全体に整備され、各施設での木質バイオマスボイラーの普及率が高まっています。 「エネルギーの地産地消」の実現に向けたエネルギー政策を積極的に推進しています。 「環境と経済の好循環システム」が構築されています。 緑豊かな美しい自然環境が維持されています。 省エネの取組がされています。 	<p>[3-4-1] 木質バイオマス活用促進に向けた取組</p>	<p>産業振興課</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資源、エネルギー、経済の持続的な地域内循環の仕組みづくり(「地域内エコシステム」の構築)に向けて、令和4年度は、下記の取り組みを実施。 ①「つべつウッドロスマルシェ実証事業」にて、ウッドロスマルシェの模擬開催(8/27)と収集した原料の活用調査(9/26～2/10)を実施。また、勉強会(11/24)や報告会(2/2)を開催し、町民等への意見交換と情報共有を行った。 ②木質バイオマスセンター建設工事を実施。 ③木材工芸館木質バイオマスボイラー施設建設工事を実施。 ④中間土場(日本岐中学校グラウンド)に、町有林の林地残材を収集。 ⑤北見河川事務所と河川支障木の有効活用に向けた基本協定書を締結(北見河川事務所初、地域内エコシステムでの協定締結は全国初)。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民及び関連事業者等との合意形成。 ウッドロスマルシェで集まった材の有効活用。 安定した材の確保。 木質バイオマスセンターの運営と指定管理者との連携。 専門知識を有した機関との連携協力。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域内エコシステム」の構築の核となる「木質バイオマスセンター」に集まった材の有効活用に向けた品質分析調査。 つべつウッドロスマルシェの参加者拡大に向けた、町内外への取組周知。 木材工芸館キノス及び複合施設に導入したチップボイラーの適正な運転方法の検討。 その他公共施設への木質バイオマスボイラーの導入。 化石燃料の価格に影響しないエネルギー地産地消のまち。 住民等への勉強会を継続開催し、更なる合意形成を図る。 	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 木質バイオマスセンターや木材工芸館バイオマスボイラーが建設されたが、建設によりどの程度の成果が上がるのか、年間を通した成果報告も今後は必要と思う。</p> <p>【評価】 町内の切った木材の受け入れですが、軽トラでなおかつ長さを揃えて収めるという仕組みとなっていますが、2トンや4トンダンプで長さも関係なく受け入れてくださると持ち込みやすいです。揃えて切る手間に時間がかかってしまい、持ち込みにくいと感ずます。</p>
	<p>[3-4-2] 再生可能エネルギーの推進・PR</p>	<p>産業振興課</p>	<ul style="list-style-type: none"> 町広報(2022年10月号)にて、「つべつウッドロスマルシェ模擬開催」の結果を掲載。 町広報(2023年1月号)にて特集「木質バイオマスの取組」(11/24開催の再エネ勉強会)を掲載。 町広報(2023年3月号)にて特集「木質バイオマスの取組」(2/2開催の成果報告会結果)を掲載。 町広報(2022年5月号)にて、補助金制度のお知らせ(太陽光、ペレットストーブ)を掲載。 町広報(2022年10月号)にて、補助金制度のお知らせ(ペレットストーブ)を掲載。 農業用水路における小水力発電の導入可能性調査を令和3年度に続き実施(企業局の無料支援事業を活用)。 役場庁舎暖房における省エネ運転に向けた調査と改善試験等を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 周りにある木に関心を持ってもらうこと。また、木を集める仕組みを町民に周知し、理解し、協力してもらうこと。 専門用語をわかりやすく簡潔に伝えること。 再エネの設備費用等コストが高いこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電等によるマイクログリッド導入に向けた検討。 公共施設にV2Bシステムを導入し、電気自動車の普及推進を図るとともに、停電等災害時には電気自動車避難所に行き、電源が確保できる仕組みづくりを構築。 防災×再エネ×ゼロカーボンを目指す。 年1回、広報等により再エネの取組を掲載。 	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【提案】 ペレットストーブだけでなく、薪ストーブについても補助金制度を創設して頂きたい。また、バイオマスセンターやキノス、キャンプ場(21の森)などで薪を販売してほしい。</p>

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-1 林業の振興「人・木・森を育て新たな価値を創出する未来へと繋ぐ森林産業の振興」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価			外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	
<p>●林業が誇りある基幹産業として地域を支え続けています。津別の林業・林産業ブランドイメージと全国的な知名度がより高まっています。</p> <p>●林業が若者の憧れの職業になっています。若い世代に林業・技術が引き継がれています。</p>	[4-1-1] 労働環境の更なる向上とイメージ戦略による林業技術者及び担い手の確保	産業振興課	<p>●森林環境譲与税を活用し、町内事業体に新たに就職し、1年間就業した場合、補助金を交付している。 →令和4年度は2名が対象となり、補助金を交付している。令和2年以降、町内事業体に累計7名が継続就業している。 →令和4年度、北の森づくり専門学院卒業生1名が、住宅準備補助金を活用し町外から町内へ移住し、町内事業体に就業見込みである。</p>		北の森づくり専門学院で行う企業説明会に出席する、町内事業体に、当該補助金説明資料を配布し学生に周知してもらう。	【評価】 続けてください。
<p>●森林・林業教育が学校や地域で行われ、子どもから大人まで津別の林業・木材加工技術に関する知識を持ち、全国の人に向けて町民一人ひとりがその魅力を発信できるまちとなっています。</p> <p>●労働環境や安全面のさらなる向上により、安定した収入が確保され、意欲的で高い技術を持った林業従事者が多く働いています。</p>	[4-1-2] 林業の機械化・効率化の促進とスマート化に向けた調査研究	産業振興課	<p>●森林環境譲与税を活用し、町内事業体にて、労働者の安全及び効率化を目的として購入した装備品に対して補助金を交付している。 →令和4年度は1事業体15点の購入費に対し補助金を交付している。</p> <p>●森林環境譲与税を活用し、町内事業体にて、林業の機械化・労力の省力化を目的として購入した機械に対して補助金を交付している。 →令和4年度は1機の購入費に対して補助金を交付している。</p>	●林業機械の納期が長い ため、年度内申請、納品が難しい。	補助金を活用し、町内林業事業体が機械化や効率化を図り、若い人材を確保すること。	【評価】 続けてください。
<p>●ICT化・機械化による効率化が進み、先駆的な技術・手法を取り入れた持続可能な林業が展開されています。</p> <p>●適正な施業と維持管理により、植え付けから伐採・利用までの理想的なサイクルが整い、木材需要に対応した、多様で健全な森林が形成されています。</p>	[4-1-3] 林業・林産業のブランディングとプロモーションの推進	産業振興課	令和5年度に向けて、相富木材加工の加工技術や製品を周知するため、シラカバ製スプーンを購入し、町内飲食店等に配布し普及啓発を図るため予算計上した。		令和6年度以降オホーツク産材から津別町産シラカバ材を使用した製品にし、更に津別町をPRする。	【評価】 続けてください。
	[4-1-4] 津別産木材の地域ブランド化と利用促進	産業振興課	4-1-3と同じく令和5年から実施する。			
<p>●地域資源を活かした木質バイオマスなど再生可能エネルギーの利用が全町に波及し、温室効果ガス排出削減・災害防止などに寄与しています。</p>	[4-1-5] 競争力強化に向けた町内企業との連携強化	産業振興課	令和6年度より実施する予定である。			
	[4-1-6] 木育の推進と学校教育での林業体験学習の充実	生涯学習課	<p>【木育】「木のまちつべつ」で生まれ育った子どもたちに、津別の基幹産業である林業等への理解を深め、将来を担う人材になってもらうべく、小学校3・5年生、中学1年生の3学年で講師を招へいし、森で木に触れる体験や木工品製作を実施。</p> <p>【林業体験学習】再生可能エネルギーの利用について、学ぶ機会としてペレット工場の見学を実施。</p>	<p>【木育】講師及び助手の高齢化が進んでいるため、後任の選定について検討を行っている。</p>	●学校運営協議会を活用し、授業の見える化を図りながら、新たな講師等の担い手を検討していく。	<p>【質問】 町内に木育マイスターが複数いるのに木育について町内の人材に声がかからないのは何故か？</p> <p>【質問】 「森のようちえん」や津小・中・高で実施している「森のこだま」の学習プログラムとの連携は出来ないのか？</p> <p>【評価】 続けてください。</p>
		産業振興課	<p>●5年生の木育授業では、校庭内に植栽されている樹木の葉を採取し、こすり描きを行った。 ●3年生の木育授業では、上里に行き天然林と人工林の違いによる説明を行った。 ●津別高校を対象にした、つべつ学については、共和町有林地拵え現場で数名がグラップルの試乗操作と参加者全員で枝打ち体験を行った。</p>	●現場授業は高校から現場までの距離や天候に左右されるため、事業体との打合せや準備が大変である。	現場に行けない場合の、室内での代替授業も準備する。	【評価】 続けてください。

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-2 農業の振興「持続可能で創造性の高い魅力ある農業の振興」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎スマート農業と大型機械化が進み、津別ならではの創造性の高い農業が実現しています。</p> <p>◎計画的な農地整備、機械化により、安定的で生産性の高い農業が行われています。</p> <p>◎地域で作られた安全・安心で美味しい野菜・農作物を食べることができます。農業体験や「食育」を通じて、子どもたちが津別町の農業の魅力と価値をより一層感じられるようになっています。</p> <p>◎「美味しい〇〇〇〇といえば津別町」という全国区の特産品が生まれています。</p> <p>◎グリーンツーリズムをはじめとする農業×交流の体験プログラムが充実し、新しい人のながれとリピーターが農業への活気をもたらしています。</p>	<p>[4-2-1] スマート農業の導入促進・大型農業機械の導入促進</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・津別町農業協同組合が主体となり、NTTドコモ、北見工業大学と連携し、スマート農業実証プロジェクトが推進されている。令和3年度から継続事業で令和4年度においてもドローンを用いた病害検知システム、5Gトラクターシステム等の実証実験が行われており、町としても必要に応じた支援を行う。</p> <p>・令和2～3年度の2か年計画で産地生産基盤パワーアップ事業を活用し、ICT対応型機種としてGPS自動操舵システム100台、可変施肥対応型ブロードキャスター32台、車速連動装置付スプレーヤ37台、農薬散布ドローン2台を導入。令和4年度においても持続的畑作生産体系確立緊急対策事業を活用し、播種作業機や防除用作業機等の高性能農作業機械を導入した。</p>	<p>・農作業機械のみならず、肥料・農薬等の資材においても大幅に高騰していることから、機械の導入により、収益性が確保できるかを慎重に判断する必要がある。</p>	<p>・「スマート農業」のみならず、環境負荷軽減を目指す「みどりの食料システム戦略」と一体的に推進できるよう関係機関と具体的に協議を行う。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p>
	<p>[4-2-2] 「食育」の推進・農業体験の充実による農業の価値・魅力向上に向けた取組</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響により、令和3年度に引き続き、令和4年度においても教育旅行の受入が全て中止となった。また、会員減少による担い手不足を解決する1つとして、受入の広域化に取り組んでおり、今後も複数の市町村と連携しながら事業を推進していく。</p>	<p>・教育旅行受入の基盤となる協議会会員の減少が顕著であるため、会員の確保に向けた取組が必要である。</p>	<p>・会員の確保に向け、農業者向けの説明会を実施するなど、事業のPRに尽力する。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p>
	<p>生涯学習課</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>【食育】食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に着けることができるようになることを目的とする。</p> <p>・オール津別産給食～例年11月頃にオール津別産給食を3回(精米・麺・パンの主食で各1回)実施。子ども達に地元の食材を使った給食を通して、少しでもふるさと津別のことに興味をもってもらい、郷土への愛着や感謝の気持ちを育むことを目的に実施。</p> <p>・地元食材を使った給食の提供～普段の給食に可能な限り地元食材を使い、地産地消の意義や大切さを知ってもらうことを目的に実施。</p> <p>・食育授業の実施～平成21年4月から栄養教諭が配置されたことから、本町においても「食に関する知識」「食を選択する力」「望ましい食習慣」を身につけさせ、健全な食生活を実践することができるよう津別小学校で食育の授業を行い、食育の推進を図っている。各学年ごとにテーマを決めて実施。</p> <p>【農業体験】小学3年生及び中学2年生の総合の授業で生産者の思いを聞いた後に、収穫体験を実施。じゃがいも、かぼちゃの収穫や玉ねぎの選別等を体験している。また、津別小学校では、JA職員を授業にお呼びし、津別で生産している農産物や農家・JAの仕事について説明いただいている。</p>	<p>【食育】コロナ禍での授業の中で、生産者の思いを聞くなどの場も設けてみたいと考えているが、取り組めていない。</p>	<p>【食育】今後、授業の中で、生産者の思いを聞くなどの場も設けてみたい。</p> <p>【農業体験】今後も、町の一次産業を体験し、知る機会を設けていく。</p> <p>・食育・農業体験ともに学校運営協議会を活用し、授業の見える化を図っていく。</p>	<p>【評価】 農協青年部も積極的に参加しているので、毎年恒例とは思いますが、継続していただきたいと思います。</p> <p>【評価】 食育と農業体験がセットになっているのはとってもいいと思います。</p>
	<p>[4-2-3] 津別産食材のブランド化・生産者が主体となった6次産業化の推進</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・町内の生産者が設立した「つべつ' TAKE ACTION' ミーティング」において、多種多様な検討課題がある中で、食材のブランド化、6次産業化等も協議されている。本団体にはJAや役場、まちづくり会社等も参画しており、官民が一体となって推進していく。</p>		<p>・実現に向け、引き続き協議する。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p>

<p>[4-2-4] 農業の担い手の確保・人材育成</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響が続く中、新たな労働力確保に向けて適宜JAとともに協議を行っている。令和4年度については、農業の担い手不足解消に取り組む地域おこし協力隊としてJAつべつに1名着任した。令和3年度は新規法人が1社設立し、令和2年度の新規就農者1名についても継続して就農時の資金面のサポートや収益の安定に向けた体制整備をJAと連携を行ってきた。</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響(移動の自粛等)により、人材の確保が難しい。 ・さらに1名の地域おこし協力隊の募集を行っているが、募集しても応募がない状況が続いている。</p>	<p>・新規就農者の受入と雇用拡大に向け、引き続きJAと連携を行う。</p>	<p>【評価】 続けてください</p> <p>【評価】 全道もしくは全国規模で津別町アピールとともに、わかりやすく募集していけば気軽に応募もくると思います。</p> <p>【評価】 林業もそうですが、都市圏からの関係人口も含め、PRを補助する仕組みがあっても良いかと思っています。</p>
<p>[4-2-5] 強い農業・持続可能な農業に向けた基盤整備</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・本町の農業における生産能力の拡大と持続可能な農業の推進のために下記の事業を計画、実施した。</p> <p>1、土地改良等</p> <p>①国営農地再編整備事業(津別地区)H27年から継続 受益面積2,432ha、R4実績 区画整理工事300ha 調査測量66ha</p> <p>②道営水利施設等保全高度化事業(津別1地区)R3年新規採択 受益面積220.2ha R4実績 区画整理工事35.64ha</p> <p>②道営水利施設等保全高度化事業(津別2地区)R4年新規採択 受益面積313.6ha R4実績 調査測量 管路11,900m 施設4箇所</p> <p>③農業水路等長寿命化・防災減災事業(恩根地区)R4新規採択 受益面積533ha R4実績 調査測量 電気計装機器1箇所 管路L=500m</p> <p>④農地耕作条件改善事業(岩富地区)R3年から継続 受益面積6.95ha R4実績・完了 農業用排水路 L=68m</p> <p>④農地耕作条件改善事業(共和地区)R4年新規採択 受益面積25.83ha R4実績 調査測量 農業用排水路L=60m</p> <p>⑤小規模土地改良事業 R4実績 暗渠排水 L=409m 明渠排水L=488m</p> <p>2、農業生産機能維持向上</p> <p>①多面的機能支払い交付金事業 鹿侵入防護柵・農業用排水・農業用作業道等の維持補修</p> <p>②鳥獣被害防止対策事業 有害鳥獣の駆除</p> <p>③環境保全型農業直接支払交付金事業 環境に配慮した農業生産への支援</p>	<p>1、土地改良等 気象変化に伴い土地改良のニーズは高まっている。加えて農業従事者の高齢化及び労働力不足に伴う機械の大型化に対応することが必要となっている。 また、安定的な生活および営農を行うための営農用水等の整備が必要となっている。</p> <p>2、農業生産機能維持向上 農業従事者の高齢化及び労働力不足に伴う担い手の確保が必要となっている。</p>	<p>1、土地改良等</p> <p>①国営農地再編整備事業(津別地区) 継続</p> <p>②道営水利施設等保全高度化事業(津別1地区)継続 道営農用水整備(津別2地区)継続 ③農業水路等長寿命化・防災減災事業(恩根地区新規)</p> <p>④農地耕作条件改善事業(岩富地区継続)(共和地区新規)</p> <p>⑤小規模土地改良事業 継続</p> <p>2、農業生産機能維持向上</p> <p>①多面的機能支払い交付金事業 継続</p> <p>②鳥獣被害防止対策事業 継続</p> <p>③環境保全型農業直接支払交付金事業 継続</p>	<p>【評価】 続けてください</p>

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-3 雇用確保・商工業の振興「多種多様な働く場を広げ誰もが笑顔で働くことができるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>●まちなかに複合商業施設が整備され、町内で生活に必要な買い物をすることができます。周辺に多様な業態の店舗が営業しはじめ、中心市街地ににぎわいが戻ってきています。</p> <p>●世代間・異業種・同業種の交流が活発に行われ、横の連携による様々な活動が行われています。</p> <p>●若者にとって魅力ある仕事があり、住みやすい環境が整い、若者の定住が進んでいます。</p> <p>●老若男女、障がい者も高齢者も外国人も、働きたい人が働ける、魅力ある仕事や働きやすい環境が整っています。働き手のニーズと仕事のマッチングにより労働力不足が解消しています。</p> <p>●店舗や経営者の事業承継が進み、若者へノウハウやスキルが受け継がれています。</p>	<p>[4-3-1] 若者の定住促進策と連動した若者の雇用推進</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・コワーキングスペースJIMBAの利用促進により、テレワーク等の誘致促進を図った。</p> <p>・移住定住サポートデスクにおいて、道東テレビの生配信番組「the井戸端会議」とコラボしたオンラインイベントを開催し、移住定住の魅力について発信した。 →オンラインイベント:1回</p>	<p>・コロナの影響が少なくなってきたが、一方で都市部への転入超過に戻りつつあり、地方移住に対する意識が全国的に弱まりつつある。</p>	<p>・立地条件(北見や女満別空港等へのアクセスの良さ、自然環境の豊かさ)を生かした、効果的な移住定住に関する情報発信を進めていく。</p> <p>・限られたチャンス内でのイベントへの参加など、推進のために最大限促進していく。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 他市町村にはない魅力的な事、物、場所、人を広くPRし、同時に新たに生み出すことを続けなければ津別町を訪れる理由に乏しい。</p> <p>【評価】 津別の強みは世代を超えた地域の人と繋がれる場があることです。JIMBARも復活し、地域の人と直接交流する機会があるのは移住希望者や移住してきた人たちにとってとても多いと思います。新たな若者層へのアプローチとして、津別町と相性がいいのは、まちづくりに興味がある若者層だと思います。インターンの受け入れなど外からの若者を通じて更におもしろいまちづくりができればいいなと感じます。</p>
		<p>産業振興課</p>	<p>【再掲(1-1)】 ・小規模事業者若者雇用促進助成金事業の継続実施。R4から対象若年者の要件を一部緩和(正規雇用された日の属する月に町内に住所を有すこと者→正規雇用された日から1年以内において町内に住所を有する者) →R4実績見込:6事業者8名(うち新規2事業者2名) ・起業の促進及び企業活動の支援を目的に起業等振興促進条例の時限を3年間延長(R5~R7) ・UIJ新規就業支援事業の継続実施と町内企業への法人登録の推進。 →R4見込:0件</p>	<p>・量的に雇用機会はあるものの、求職者とのミスマッチが生じている。</p>	<p>・UIJ新規就業支援事業の継続実施。 ・他町と連携した雇用対策の組みの強化。</p>	<p>【質問】 雇用機会の割にミスマッチとありますが、こういった原因があるのでしょうか？</p>
	<p>[4-3-2] 商業の振興と買い物環境の確保(複合商業施設の整備)</p>	<p>住民企画課</p>	<p>【再掲(1-1)】 ・買い物等利便性確保の観点から、まずはスーパーマーケット、バス待合、ハイヤー事務所、図書館が同居した複合施設「大通棟」が完成。オープンはR5年度を予定。ドラッグストアの整備についてはR5年度中に予算協議を行いR6年度に工事着工・完成を目指す。</p>	<p>・人が集まり賑わいや活気をもたらす仕掛け作りを民間事業者と連携して進める必要がある。</p>	<p>・引き続き、市街地総合再生基本計画推進協議会と、議会全員協議会で合意形成を図りながら、事業を進めていく。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p>
		<p>産業振興課</p>	<p>【再掲(3-1)】 ・起業等振興促進条例に基づき、2件の販売施設の改修及び機械等設備の更新を支援。町民の買い物環境の質の向上の一助になった。 ・R4もお買い物割引券を発行し、町内での購買促進の一助になった。 ・地元食材を活用した飲食物や特産品の販売拠点である、レストハウスつべつが営業を再開した。</p>	<p>・既存店主の高齢化。</p>	<p>・起業の促進及び企業活動の支援を目的に起業等振興促進条例の時限を3年間延長。</p>	

[4-3-3] 多様な働き手・担い手による労働力確保	保健福祉課	障がい者の雇用の場の拡大は図れていませんが、お試し就労(職場体験実習)を推進するため、令和4年12月に1市4町(北見市、訓子府町、置戸町、美幌町、津別町)の共同事業として、「障がい者雇用に関するアンケート」を実施した(現在代表団体である北見市において結果の取りまとめ中)。 ※送付対象は1市4町管内の4,278事業所 ・前年度に引き続き、人材活用センターの運営費(専門員の人件費相当額)を補助した。	町内の就労事業所はB型のみで、B型の就労に該当しない障がい者は就労の場がない。 ・定年後のライフスタイルの変化や、既登録者の高齢化、新規登録者の減により、登録者数が減少傾向にある。	「障がい者雇用に関するアンケート」の結果の取りまとめ後、自立支援協議会や町内の関係機関と協議しながら、雇用や就労の場の拡大に努めたい。 ・人活センターの募集を毎年年度行う中で、町内企業への周知等で会員数の維持・確保に努めたい。	【評価】 続けてください。 【提案】 外国人も複数人入ってきているようですし、こういった補助や取り組みを各課で連携してみてはどうでしょうか。
	住民企画課	・北海道つべつまちづくり株式会社が行う求人求職マッチング促進事業に協力し、津別町内事業所の魅力や求人情報を集約したサイト『津別町仕事情報発信サイト ワークINツベツ』を運用している。 →掲載事業所数:27件 ・支援制度や資格取得等について、随時お知らせとして掲載し情報発信した。	・津別町の実態を把握しきれておらず、実施すべき対策を明確にすることができていない。 ・町内の事業所の就職にサイトによる効果があったかわからない。(フィードバックする方法がない)	・掲載情報の更新や新規掲載事業所を増加させる等、サイトを作っただけにしない取り組みを進めていきたい。	【評価】 ワークINツベツは、第一段階として、津別町にどのような事業者があり求人(ハローワーク情報)があるのかを誰でも知れるようにするということができたと思います。 第二段階としては、事業者独自の求人情報の掲載。細かいニーズとのマッチングだと思っています。この部分が本来のワークINツベツを作った意味で、第二段階にいかなければ、本来必要とされている事業所との課題共有や解決のための施策にはなりづらい気がしています。 【質問】 ワークINツベツのサイトが立ち上がってからこれまでの運用成果をお聴きしたい。
[4-3-4] 各種交流促進によるスキル・ノウハウ継承の推進	住民企画課	・北海道大学学生サークルHALCCと津別高校生との高大連携事業として、「調べる力」「考える力」「伝える力」を身に付けることを目標として、津別の未来を考えた高校生版総合戦略を作成。大学生を通じてまちづくり人材の育成を図った。 →高校生による提案10件(令和4年度)	・提案にとどまり、町の施策等に反映することが難しい。 ・HALCCメンバーの主体が大学生となってきたり、本業である学業に支障が出ないように配慮する必要がある。	「提案」のみに止まらず、形として残る「成果」として残せるようにしていきたい。	【評価】 続けてください。 【質問】 HALCCの提案でこれまで実際に施策として実行された提案として、どのようなものがあるのかお聞きしたい。 【評価】 高校生の取り組みはすばらしいですね。もう一つ言えばここでの六次計画の文言の意味を汲み取ると地域に住まわれている方々に対してのものだとも思います。
[4-3-5] 企業誘致・街並みの整備	産業振興課	・企業の誘致ではないが、起業等振興促進条例に基づき、R4は1件の起業(法人)あり。		・起業の促進及び企業活動の支援を目的に起業等振興促進条例の時限を3年間延長。	【提案】 アウトドアやアクティビティを中心とした企業や団体を誘致してはどうか。(キャンプ場の運営、SUP・カヌーのガイド、サウナ、その他アウトドアに関する企業など)
	住民企画課	・ドラッグストアを誘致する建物は建設までに至っていないが、スーパー、図書館、交通拠点の一体的な施設「大通棟」が完成した。	・完成した「大通棟」や今後建設を計画している「幸町棟」に関してまだ住民の納得が得られていない部分がある。	・情報発信により住民合意を得ることで、円滑に整備事業を進めていきたい。	【評価】 続けてください。 【評価】 前述3-2-3に同じで、太陽光パネルばかりの町なみになってほしくないなとは思いますが、この立地と気候にあった企業があれば良いですね。

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-4 創業支援「創造・革新・交流が生み出す好循環が人を惹きつけ新たなビジネスを創出するまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>●新規起業への支援制度や体制、情報発信が充実し、創業・起業するために多くの人が集まっています。</p> <p>●空き店舗を有効活用したビジネスの拠点や魅力的な店舗の開業、交流の場など、多様な広がりを見せています。</p> <p>●事業承継が進み、自営業者の世代交代が円滑に進んでいます。</p> <p>●町内にコワーキングスペース等が充実し、自由で多様な働き方を受入れる環境が整っています。</p> <p>●町内・町外の人々が交流できる多様な場があり、それぞれ活発な交流活動が行われています。</p>	<p>[4-4-1] 創業・起業・交流のための空き店舗等の活用</p>	<p>住民企画課</p>	<p>●空き家バンクの活用により空家等情報の一元化及び利用者への紹介等を通じて空家利活用を図った。 →空き家等延べ登録数:空家20件(うち新規17件)、土地32件(うち新規11件) →利用希望者延べ登録数:101名(うち新規28件) →マッチング件数:16件 ●コワーキングスペースJIMBAの利用促進により、テレワーク等の誘致促進を図った。</p>	<p>●イベントの開催要件等については緩和されてきたものの、コロナの感染拡大を受け交流イベント自体が中止となることもあったため、町内での多世代・異業種交流は停滞気味である。 ●町外者の往来が制限が緩和されてきているものの、コロナ禍前の状態に戻ることはない。</p>	<p>●空き家バンク、コワーキングスペース、地域おこし協力隊などの各種制度や施設の連携を通じて、空き家や空き店舗を利活用した起業等を推進していく。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 津別町で創業・起業する魅力や利点を強くPRする必要があるのではないか。</p>
<p>●町内・町外の人々が交流できる多様な場があり、それぞれ活発な交流活動が行われています。</p>	<p>[4-4-2] 地元企業・経営者への支援</p>	<p>産業振興課</p>	<p>●商工会や両信金を中心に地元企業・経営者の支援を実施。 ●先端設備等導入計画の認定継続。 →R4実績:変更2件 ●創業支援計画に基づく特定創業支援認定の継続。 →R4実績:認定1件 ●起業等振興促進条例補助金事業、小規模事業者若者雇用促進助成金事業、特産品販路拡大支援補助金事業の継続実施と時限の延長(R5～R7)。特産品販路拡大支援補助金事業については、1企業の補助回数を拡大予定。</p>	<p>●量的に雇用機会はあるものの、求職者とのミスマッチが生じている。 ●経営者の高齢化、事業継承への支援。</p>	<p>●他町と連携した雇用対策の推進。 ●先端設備等導入計画及び地域未来投資促進法に基づく計画の継続検討。</p>	<p>【評価】 引き続き、独自イベントやその発信を強化し、まちづくりに興味がある人や、チャレンジしたい人などに津別っておもしろい。津別でチャレンジしてみようと思ってもらえるようなアプローチをしていければと思います。</p> <p>【評価】 続けてください</p> <p>【評価】 店主の高齢化に伴い、既存店の事業承継が課題だと感じる。</p>
<p>●町内・町外の人々が交流できる多様な場があり、それぞれ活発な交流活動が行われています。</p>	<p>[4-4-3] 起業支援・人材育成</p>	<p>産業振興課</p>	<p>●起業支援については、町のホームページ、くらしのガイド、移住サイトの他、商工会や両信金、日本政策金融公庫とも連携し、情報発信を継続。町外の起業希望者の問合せも増えている。 ●創業支援計画に基づく特定創業支援認定の継続。 →R4実績:認定1件 ●起業等振興促進条例補助金の継続実施と時限の延長(R5～R7)。 →R4実績:起業1件、改修1件、機械等設備の更新1件</p>	<p>●隊員が参加できる研修が日程的に限られており、参加したくても参加できないという場合が多い。</p>	<p>●他町と連携した雇用対策の推進。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p>
<p>●町内・町外の人々が交流できる多様な場があり、それぞれ活発な交流活動が行われています。</p>	<p>[4-4-3] 起業支援・人材育成</p>	<p>住民企画課</p>	<p>●地域おこし協力隊員を対象として、自主研修等に係る旅費及び研修負担金を負担することで、人材育成を図った。 →参加研修等:延べ4回</p>	<p>●隊員が参加できる研修が日程的に限られており、参加したくても参加できないという場合が多い。</p>	<p>●北海道つべつまちづくり株式会社と連携して地域おこし協力隊員へのフォローアップに取り組む。 ●町内外の地域おこし協力隊員同士の繋がりを作る工夫を行い、隊員同士の情報共有についても推進していきたい。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p>

5 観光・交流「世界に発信できるつべつ・地域魅力づくり」～地域資源の価値向上と交流がさらなる魅力につながる強みを活かした観光のまち～

施策 5-1 観光地域づくりの推進「地域資源の価値を高める持続可能で戦略的な観光地域づくりの推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当 部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>○「〇〇といえば津別町」と知名度のある特産品や観光地があり、津別町産の物を食べたり、購入できる場所があります。</p> <p>●魅力発信人材やガイド、外国語対応可能な人材が育ち、全国・世界各国から観光客が訪れるようになっています。需要に合った宿泊施設が整備されています。</p> <p>●広域連携しながら道東の定番観光ルートに津別が入っており、多くの人が立ち寄るまちとなっています。</p> <p>●「稼ぐ力」を引出し、持続可能で地域資源の保全をしながら観光客を受け入れる観光振興体制が整っています。</p> <p>●エコツーリズムによる人的交流・観光が活発に行われています。</p>	<p>[5-1-1] 観光プロフェッショナル人材による観光地域づくりに特化した組織の形成と推進</p>	<p>産業振興課</p>	<p>NPO法人津別観光協会の自立化に向けた支援。</p>	<p>観光地域づくりの中核となる人材の不足。</p>	<p>●NPO観光協会を中心とした、観光地域づくりの人材育成。 ●観光事業者の横の連携。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 観光地域づくりを担う即戦力が観光協会には必要だと感じる。観光協会の主体は本業と兼任している方が多く、実行部隊としては職員3名しかいないのが実情であり、企画運営ができる人材を雇用する必要がある。</p> <p>【提案】 まちひとつづくり助成のように、個人個人の観光アイデアを可視化して取り組んでいただけるような仕組みを観光協会と提携してみるというのはどうだろうか？</p> <p>【評価】 「人材の不足」に対する支援が出来ていない。観光協会内、役場内、町内のどこに人材が不足しているのか？ 企業版の地域おこし協力隊制度などを活用して、観光系の企業(JTBなど)から出向などしてもらう方法は？ 観光協会の理事の中で「本業が観光事業者」は何人いるのか？兼任が多すぎるのであれば、組織を再編すべきではないのか？ 観光協会と観光事業者による「話の場」(横の連携)などの機会を作ったことはあるか？ 観光の現場に協会理事や役場職員はどの程度足を運んでいるか？</p>
	<p>[5-1-2] インバウンド対応の推進</p>	<p>産業振興課</p>	<p>アフターコロナを見据え、多言語による観光デジタルマップを作成。</p>	<p>インバウンドに対応した案内看板等が未整備。</p>	<p>●観光デジタルマップの利用促進。 ●インバウンドに対応した観光案内看板の作成検討。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 町内のマップは観光協会や町づくり会社、行政の各課で重複して制作していることが多いため、マップ及び看板は一つの業者に委託するべきだと思う。製作者の違う多くのマップが乱立することで統一性がなく分かりづらい。</p> <p>【提案】 ランプの宿をチミケップホテルや星のリゾートのように高級宿に転換して、お金の落ちる仕組みを作ってはどうだろうか。 そうするとランプの宿を町民が利用できなくなる可能性もあるので、経営がうまくいけば、ランプの宿助成を無くして、町民に還元する仕組み、町の中に温浴施設を作るなどの方向性もあるのかなと思います。</p> <p>【評価】 Wi-Fi環境をもっと整えるべきです。町の情報発信が電子媒体である以上、Wi-Fiが使える環境が少ないと厳しいと思います。</p>

<p>[5-1-3] 持続可能な観光地域づくり</p>	<p>産業振興課</p>	<p>エコツーリズムの推進に向け、環境省等の関係団体と協議を開始。</p>	<p>エコツーリズム推進全体構想の策定には多くの課題がある。</p>	<p>・エコツーリズムの推進に向け、どのような取り組みが可能かについて関係者と協議していく。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 津別峠展望施設の看板が「町内のみ」をPRしていることが観光客視点ゼロ。 「関係者と協議」するための協議会はいつ設立されるのか？</p>
<p>[5-1-4] 町民が実感できる地域の魅力づくりと魅力発信人材の育成</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・対象を拡大しての自然体験プログラム体験料の助成、つべつ宿泊キャンペーンの助成を継続実施。 →R4実績：自然体験プログラム602人、宿泊キャンペーン2,991人 ・ランプの宿森つべつの町民入浴料の全額割引の継続実施。 →R4実績：大人8,237人、子ども331人 ・町民を対象に屈斜路カルデラ外輪山トレイルルートのモニターツアーを実施。</p>	<p>観光への関心度。</p>	<p>・引き続き町民が町内の観光資源に興味を持っていたり、楽しめるような取組の推進。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【提案】 町内の観光資源に付加価値を持たせるような仕組みづくりや、それを楽しめるような施設整備に投資すべきだと思う。</p> <p>【評価】 「観光地域づくり」として出来ることはまだまだあるが、現場の声を役場職員や観光協会が聴く機会、届ける機会がほとんどない現状の改善を期待する。</p>
<p>[5-1-5] 広域連携の強化と観光インフラ整備の推進</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・3町広域観光協議会での屈斜路カルデラ外輪山トレイルルート整備事業の継続実施。 ・阿寒周国立公園広域観光協議会で情報発信の継続実施。</p>	<p>・町内観光施設の老朽化により、修繕費が高騰。</p>	<p>・老朽化した町内観光施設の改修計画の検討。 ・広域連携による、トレイルルート開通に向けた準備。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 トレイルルートの整備について、トイレや上水道、電気などインフラ整備に加えて、熊の出没に関する安全対策も重要だと思う。</p>

5 観光・交流「世界に発信できるつべつ・地域魅力づくり」～地域資源の価値向上と交流がさらなる魅力につながる強みを活かした観光のまち～

施策 5-2 地域交流の推進「人と人、地域と地域 つながりから多彩な魅力と価値が生まれるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎交流拠点等の整備(図書館、複合商業施設等)がなされ、人々の交流が活発に行われています。</p> <p>◎南アルプス市、船橋市、台湾二水郷などの姉妹都市や、スポーツ合宿のつながりが継続発展し、全町民が親しみを有する交流が行われています。</p> <p>◎スポーツや青年活動等、町内のそれぞれの人にあつたさまざまな形で交流できる機会づくりが行われています。</p> <p>◎人口減少に伴い、人不足から各団体の活動を廃止・縮小するのではなく、既存の価値観にとらわれず現状に合った新たな活動が行われています。</p> <p>◎定住自立圏構想を活用した取組が積極的に行われています。</p>	[5-2-1] 多世代交流や異業種間・職場間交流促進事業	住民企画課	【R4年度から】 ・「1-4-5 「津別町まちおこし大学ver.2.0」の実施」の検討に本取り組みの要素を盛り込んでいく。	-	-	【評価】 続けてください。
	[5-2-2] 姉妹都市やスポーツ合宿の来町者と町民との交流事業	総務課(姉妹都市)	コロナ禍で南アルプス市と船橋市との交流事業はできなかったが、台湾二水郷とは友好都市提携10周年を迎えたことから、オンラインにより10周年記念調印式を行い、交流の継続を確認した。	コロナ禍により相互訪問ができなかった。	コロナ禍の制限もなくなり、相互訪問を再開し、交流を深めていく。	【評価】 続けてください。 【質問】 姉妹都市との交流が津別町民にとってどのように関わってくるのかお聞きしたい。
	生涯学習課(スポーツ合宿)	・コロナ禍のなかで、道外からのスポーツ合宿誘致が厳しい状況だったが、事前に体調確認をとるなどガイドラインを活用しながら、道内チーム中心に受け入れを実施した。 →サッカー3団体、グレステンスキー4団体、ラグビー2団体、バレー1団体、野球1団体 計11団体 延べ人数792名	・コロナウイルス感染症防止対策のため、長年合宿を継続していた道外チームの受け入れは困難なこと。長期間の受け入れについてはリスクが大きく対応が難しい。	・Withコロナで防止対策を講じた受け入れ		
	[5-2-3] 定住自立圏構想による行政や各機関の連携や交流	住民企画課	・北見地域定住自立圏形成協定の中で協議していた、町内で発生する燃やすごみについては、令和3年4月より北見市への持ち込みが開始された。 福祉関係の連携(北見市デジ田申請 ディスプレーもらったやつ)について記載する	・コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面での会議開催ができていない。	・他分野においても、連携の可能性を模索していく。	【評価】 続けてください。

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～

施策 6-1 協働の推進「民間と行政が連携した行政運営とまちづくりの推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当 部署	内部評価			外部評価
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<ul style="list-style-type: none"> ●実施主体が中心となり行政は支援するスタイルができています。 ●自治会や町民全般もより高齢化する中で、民間の活動に頼った行政運営も実施されています。 ●異業種、異企業、異集団が広範囲につながり連携して町の発展に貢献しています ●行政、各企業・団体の若い世代が集まり、意見交換できる環境が整っています。 ●働き方改革推進協議会などで行政、民間が課題共有をしています。 ●行政課題、企業課題、諸課題を官民で共有し協働・連携で解決することで「まち育て」をしています。 ●官民の間で人事交流、職員相互派遣が実施されています。 ●民間企業等による高齢者の見守りなどが小まめに行われています。 ●SDGs(持続可能な開発目標)が定着しています。 	<p>[6-1-1] 官民間での人事交流の実施(人材育成と連携基盤の形成)</p>	<p>総務課</p>	<p>北海道との人事交流は行っていますが、官民間での人事交流には至っていません。</p>	<p>限られた職員数のため、民間との人事交流には至っていない。</p>	<p>官民連携による事業の推進、展開をしていく事により、人事交流についても検討していく。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p>
	<p>[6-1-2] 自治会活動、行政活動などや協働事業の時代に即した在り方の研究検討</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・自治会活動、行政活動や協働事業の在り方などの研究・検討するために意見交換などの活動を行うことができていないが、他市町村の状況、事例などの情報収集を行っている。</p>	<p>・高齢化により担い手不足が顕在化してきている。</p>	<p>・自治会活動、官民一体の協働事業を研究・検討するための機会の場を設けるなどの支援を行っている。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【評価】 町なか団地に入居されている世帯の自治会参加率が低い。</p> <p>【評価】 自治会も限界が来ているので、統廃合など話し合い出来る機会があれば良いですね。 また、近年とりくんでいるラインなどの町の連絡手段はとても良いものだと思いますので、広報だけでなく自治会と連携しながら出来るかと思っております。</p>
	<p>[6-1-3] 関係人口の増加、移住促進事業(新たなプレイヤー(まちづくり活動人口)の増加)の強化</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・道東エリアリノベーションプロジェクトのパイロット事業として立ち上げた起業支援型コワーキングスペース、地域融合型ゲストハウスにおいて、多世代交流、異業種交流が図られた。 →地域融合型ゲストハウス 延べ宿泊者数373名、多世代・異業種交流イベント27回(令和4年度) →起業支援型コワーキングスペース 動画生配信 1回(移住定住サポートデスク×THE井戸端会議ガッチャンコ)</p> <p>・道東エリアリノベーションスピンオフ企画として幸町地区を中心としたリノベーションウィーク2022を4月に実施し、空き家という共通点で多世代、異業種の交流が生まれるきっかけを生み出した。 →参加者延べ約120名(令和4年度)</p> <p>・関係人口優待の取組みとして町内施設を町民価格で利用できる等の特典がある「つべぷらカード」の発行を開始した。</p>	<p>・関係人口優待の取組みについて、カード発行の申請メリットを感じづらい特典内容にとどまっているため、想定していた関係人口の創出に繋がっていない。</p>	<p>・高大連携事業以外においても、HALCCと連携しながら関係人口創出に向けた取組を検討・実施していきたい。 ・関係人口優待の取組みについて、カード発行することに対してメリットを感じてもらえるよう取組内容の再検討を行っている。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【質問】 つべぷらカードは町民にどの程度認知されているのか？</p> <p>【提案】 どこの学生とわず、多くの学生が津別を舞台(まちづくり・アート・メディア・林業農業など各種専門分野・津別の福祉最前線など)に学べる機会があるといいと思います。そのことで、刺激をもらい、一緒に成長できる気がします。</p>

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～

施策 6-2 行財政「効率的・効果的な行政運営と安定的な財政基盤の確立」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当 部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<ul style="list-style-type: none"> AI(人口知能)、OCR(光学式文字読取装置)、RPA(ロボットによる業務自動化)を活用した事務の効率化が進んでペーパーレス化が定着しています。 柔軟に人を動かせる組織体制が確立されています。(労働力の機動的配分) 電子化等により文書管理の徹底が済んでいます。(集中的に移行作業を実施) 人口減少や予算規模が縮小しても持続可能な行政運営体制が確立されています。 	<p>[6-2-1] ICT(情報通信技術)機器・技術の積極的な導入による業務効率化</p>	<p>総務課</p>	<p>一部会議のペーパーレス化の浸透・定着を進めている。自治体DXに伴う行政サービスのオンライン手続化について、システム改修の対応が完了した。自治体DXに伴う共通化・標準化について対応を進めている。(R4～R7)</p>	<p>現在のペーパーレス会議は、会議参加者に対して共用のノートPCを貸し出し、全PCにUSB経由でデータをコピーするという事前準備が必要で、なかなか普及が進まない。業務用ネットワークの無線化などの設備投資が必要である。デジタルトランスフォーメーションを推進する人材の確保・育成が課題である。</p>	<p>休暇届、時間外などの内部手続きの電子化について、試験的な運用を始める。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ICT(情報通信技術)の有効活用、文書のデータベース化の徹底が済んでいます。 行政運営ノウハウ集、業務マニュアル(手順書)の完備による行政運営が効率化しています。 行政運営での迅速な意思決定と適時情報共有化ができています。 ICT(情報通信技術)等の活用により事務作業が効率化・自動化されています。 柔軟に職員の配置を動かせる仕組みができています。 北見地域定住自立圏が締結され連携が進んでいます。 	<p>[6-2-2] 働き方改革を含めた行政組織改革・運営</p>	<p>総務課</p>	<p>業務の視覚化を目的として、各担当と協力しながら全業務の業務フローを共通様式で図式化・整備する取り組みを継続して行った。R2から導入したしたファイリングの浸透・定着を目的とした研修会の実施とファイリングマネージャーに指揮・指導の実施。</p>	<p>働き方改革の取り組みを導入する際、これまでのやり方から新しいやり方へ移行する作業が必要となり、全庁的に業務多忙の状況であることから移行作業の時間を確保することが難しい。</p>	<p>担当部署のシステム改善要望を取りまとめて、改善手法について検討を行う。</p>	<p>【評価】 続けてください。</p>

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～

施策 6-3 情報発信の強化「情報発信力の強化と戦略的シティプロモーション施策の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価			外部評価
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	
<ul style="list-style-type: none"> ●SNS等を活用した次世代型の情報発信(双方向即時連携)が整備されています。 ●プロフェッショナルな統一性のある発信によるプロモーション展開が行われています。 ●子育て情報が整理されているプラットフォームが整備されています。 ●ブランドメッセージの確立によるシティプロモーションが行われています。 ●必要な人が必要なときに必要な情報を受け取れる仕組みが整っています。 ●デジタルサイネージが町内に数多く設置されています。 	<p>[6-3-1] ICT(情報通信技術)を活用したコミュニケーションネットワーク整備(次世代ネットワーク)</p>	総務課	<ul style="list-style-type: none"> ●ささえネット@つべつのLINE版で、町のお知らせ等の情報配信を実施した。→4月7日時点LINE登録者数420名 	<ul style="list-style-type: none"> ●登録者に限定した情報配信で、不特定多数に対する情報発信手段がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ささえネットを常時周知して、登録者数を増やし、素早い情報発信・伝達をする。 	
		住民企画課	<ul style="list-style-type: none"> ●広報紙などで定期的にアプリ「マチイロ」を周知し、より多くの住民への情報発信の強化を行った。 ●ホームページのリニューアルを行い、ごみ検索機能の追加やコロナ情報の特設ページなど、インターネットを通して知りたい情報がスムーズに収集できるように行った。 →令和3年度マチイロ登録者184人 →令和4年度マチイロ登録者216人 	<ul style="list-style-type: none"> ●現在、広報つべつにてアプリの周知を行っているが、定着するまでに時間がかかると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●SNS等の活用などの情報配信ツールの活用を増やし、ネットワークを利用した情報発信を強化し、津別の情報をより素早く伝える。 	<p>【評価】 デジタルサイネージを有効活用するべきです。携帯・アプリの勉強動画等の発信があればと感じます。</p> <p>【評価】 ささえネットつべつは知っていたが、広報アプリ「マチイロ」は知らなかった。</p>
	<p>[6-3-2] プロモーション媒体イノベーション事業及び広報人材育成事業</p>	住民企画課	<ul style="list-style-type: none"> ●広報紙編集ソフトでの広報紙作成を行い、よりわかりやすい、見やすい紙面の作成を行った。また、ユニバーサルデザインを取り入れた。 ●津別町のしごとをリニューアルし、フルカラー印刷でわかりやすく、見やすい紙面の作成を行った。 ●ホームページのリニューアルを行い、わかりやすい情報発信を行った。 →住民満足度調査「行政の情報発信等」の「満足」、「おおむね満足」の割合73.3%(令和3年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ●町の情報源となる広報つべつのイノベーションができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●リニューアルしたホームページの精度を上げていく。 ●全町民が見やすい広報つべつの作成を行う。 	<p>【評価】 続けてください。</p> <p>【提案】 ホームページについて、ポータルサイトにTAKEアクションさんなどの写真がありますが、ポータルサイトなので来た人が情報を取りやすいように一番下にある移住定住やワークインをクリックしやすいロゴにして導線をつけたほうが良いと思います。 津別の「すまい 仕事 暮らし」の情報を一番優先してとれるようにして、写真などは下の方でも良いのかなと。</p> <p>【評価・提案】 新ホームページについて各課毎にページがあると良い。また、各課毎に補助金の申請様式をまとめて頂けると使いやすい。</p>